琉球大学学術リポジトリ

教育における能力主義の原理と新自由主義時代におけるその実態 ー理論的及び実証的研究ー

メタデータ	言語:
	出版者: 長谷川裕
	公開日: 2009-08-13
	キーワード (Ja): 競争, 能力主義, フーコー, 個人
	キーワード (En):
	作成者: 長谷川, 裕, Hasegawa, Yutaka
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/11809

Ⅱ　調査結果(1)

Ⅱでは、この調査からどのような知見が得られたかを示し、またその知見が含意しているところは何かを考えていきたい。ここでは基本的に、Ⅰ(8)で示した調査票の質問群ごとに分けて叙述していくというやり方をとることにする。

1　学校観

調査票の最初の質問群は、「あなたは、いまの学校生活について、次の(1)～(7)のように感じることがありますか」として、表 2.1.1 にある７項目各々について「よく感じる」「ときどき感じる」「あまり感じない」「まったく感じない」の４段階で回答してもらうものである。ここでは、その回答を生徒の「学校観」と呼ぶことにする。

表 2.1.1 は、この質問群の各項目について、回答者全体による４つの選択肢の選択の割合を示したものである。各項目は、「よく感じる」の割合×４＋「ときどき感じる」の割合×３＋「あまり感じない」の割合×２＋「まったく感じない」の割合×１によって算出された数値が大きい順に並んでいる[6]。

表2.1.1　学校観(回答者全体)(単位：%)

	まったく感じない	あまり感じない	ときどき感じる	よく感じる
(5)学校はいろんなきまりがきびしい	9.4	26.0	31.5	33.1
(7)学校ではいろいろな場面で、「できる・できない」とか「良い・悪い」とかいった「評価」の目を向けられている	3.7	28.7	43.6	24.0
(1)学校に行くのが楽しみだ	9.7	25.3	44.8	20.2
(3)学校の勉強はよくわかる	12.2	42.6	39.7	5.5
(4)私の気持ちをよくわかってくれる先生がいる	20.1	44.6	28.0	7.3
(2)学校の勉強はおもしろい	20.8	42.8	30.7	5.7
(6)今いるクラスにとけこめない	30.5	46.2	18.7	4.7

この表に示されているように、そこに挙がっている７項目の範囲内では何よりも、回答者である高校生は、「(5)学校はいろんなきまりがきびしい」、また「(7)学校ではいろいろな場面で、「できる・できない」とか「良い・悪い」とかいった「評価」の目を向けられている」という感じを強く抱いていることがわかる。「評価」のまなざしと「きまり」による管理という、従来から学校制度を批判する際にしばしば言われてきた学校像は依然として妥当であるということだろうか。だがその一方で、「(1) 学校に行くのが楽しみだ」と感じている程度も小さくない。これもまた、以前から見られる傾向であり、種々の調査によっても確認されてきた点である[7]。

表 2.1.2 は、同じ学校観各項目について、回答者が所属する学級の「ランク」によって回答傾向がどのように異なってくるかを示したものである[8]。「(7)学校ではいろいろな場面で、「できる・できない」とか「良い・悪い」とかいった「評価」の目を向けられている」は、この質問群の中で唯一「ランク」による統計的有意差が見られなかった項目である。そのことは、生徒は自分が所属している学級の「ランク」のいかんにかかわらず「評価」のまなざしを受けていると感じていることを示している、と見ていいだろう。表 2.1.1 に示されたところについての上の検討で述べたように、この項目は、生徒がそうだと感じている度合いが高い項目である。学校という場において、いかに「評価」がつきものであるかが見てとれる。

6　このあとに出てくる単純集計表のうち表 2.2.1、2.6.1、2.7.1、2.8.1、2.9.1.1、2.9.1.2、2.11.1、2.12.1 においても、各項目は同様の方法で並べられている。また、表中の各項目に付されたカッコ付きの数字は、調査票の当該質問群の中でのその項目の並び順を示している。この点は、以下で出てくるすべての表や本文において同様である。

7　例えば前述の日本教育学会特別課題研究の調査では、高校２年生の場合、よく感じる 13.9%、時々感じる 43.3%、あまり感じない 32.1%、まったく感じない 10.7%であった。

8　各項目欄に付されている*は、クロス集計のカイ二乗検定の結果を示したものであり、*は $p<0.05$、**は $p<0.01$、***は $p<0.001$ の水準で統計的に有意であることを意味している。この点は、このあとに出てくるクロス集計表（表 2.2.2、2.3、2.4、2.5、2.6.2、2.7.2、2.8.2、2.11.2、2.12.2）においても同様。

表2.1.2 学校観(「ランク」ごとのクロス集計)(単位:%)

	「ランク」	まったく感じない	あまり感じない	ときどき感じる	よく感じる
(1)学校に行くのが楽しみだ***	1	14.8	27.1	42.8	15.3
	2	11.7	32.2	43.7	12.3
	3	11.0	23.7	44.4	20.9
	4	3.4	21.2	51.6	23.8
	5	7.5	22.7	41.9	27.8
(2)学校の勉強はおもしろい***	1	26.7	45.6	25.0	2.8
	2	28.1	46.5	21.0	4.4
	3	22.1	43.2	30.6	4.1
	4	15.0	43.2	35.7	6.2
	5	13.2	36.3	39.9	10.6
(3)学校の勉強はよくわかる***	1	11.9	47.8	37.8	2.5
	2	15.3	50.5	30.0	4.2
	3	12.9	41.2	40.8	5.1
	4	12.4	42.2	39.4	6.0
	5	8.8	33.0	49.3	9.0
(4)私の気持ちをよくわかってくれる先生がいる***	1	28.5	45.4	20.6	5.5
	2	22.1	46.5	25.9	5.5
	3	18.7	43.3	28.8	9.1
	4	15.3	48.0	30.5	6.2
	5	16.6	40.4	33.2	9.8
(5)学校はいろんなきまりがきびしい***	1	8.6	22.9	32.3	36.2
	2	5.5	18.2	36.9	39.4
	3	7.4	24.9	30.4	37.4
	4	7.9	37.0	29.9	25.2
	5	16.7	27.0	28.4	27.9
(6)今いるクラスにとけこめない*	1	35.4	43.4	17.5	3.7
	2	32.6	43.3	20.0	4.2
	3	28.8	46.3	18.1	6.8
	4	24.8	49.1	22.0	4.1
	5	30.7	48.5	16.3	4.4
(7)学校ではいろいろな場面で、「できる・できない」とか「良い・悪い」とかいった「評価」の目を向けられている	1	5.1	30.7	41.5	22.7
	2	1.5	29.4	44.4	24.7
	3	4.6	29.4	43.5	22.5
	4	3.2	28.8	46.4	21.6
	5	4.0	25.6	42.3	28.0

表2.1.3 学校観因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子
(2)学校の勉強はおもしろい	**0.798**	-0.012	-0.027
(3)学校の勉強はよくわかる	**0.759**	-0.171	-0.031
(4)私の気持ちをよくわかってくれる先生がいる	**0.415**	0.140	0.032
(1)学校に行くのが楽しみだ	0.153	**0.759**	0.043
(6)今いるクラスにとけこめない	0.150	**-0.429**	0.111
(7)学校ではいろいろな場面で、「できる・できない」とか「良い・悪い」とかいった「評価」の目を向けられている	0.014	-0.081	**0.564**
(5)学校はいろんなきまりがきびしい	-0.069	-0.056	**0.356**

また、「(5)学校はいろんなきまりがきびしい」については、「ランク」2の学級でそう感じている程度が最も高く、「ランク」4・5の学級ではその程度が低くなっていることがわかる[9]。この分析からは、学校序列上の位置が低い学校ほど、目に見える「管理」の程度が強くなるという、やはり従来から言われていた傾向が見てとれる。

一方、学校生活に対する肯定的な感じ方がしているかどうかを尋ねる項目「(1)学校に行くのが楽しみだ」「(2)学校の勉強はおもしろい」「(3)学校の勉強はよくわかる」「(4)私の気持ちをよくわかってくれる先生がいる」については、総じて高「ランク」の学級の生徒のほうがそう感じている度合いが高くなっている。

次に表2.1.3についてであるが、この表は、学校観に関する質問への回答に対して因子分析を施した結果を示している[10]。

第1因子は、「(2)学校の勉強はおもしろい」「(3)学校の勉強はよくわかる」「(4)私の気持ちをよくわかってくれる先生がいる」の3項目の因子負荷量が高い因子であり、第2因子は、「(1)学校に行くのが楽しみだ」「(6)今いるクラスにとけこめない」の2項目の因子負荷量が高い((6)に対しては負の方向で)因子である。両者を比較対照して考えてみて、第1因子は「フォーマルな学校秩序への適応」を、第2因子は「インフォーマルな学校秩序への適応」を意味する因子であると解釈した。また第3因子は、「(7)学校ではいろいろな場面で、「できる・できない」とか「良い・悪い」とかいった「評価」の目を向けられている」「(5)学校はいろんなきまりがきびしい」の因子負荷量が高い因子であり、「評価」や「きまり」によって縛られているという「学校からの被拘束感」を意味すると考えた。

これら3因子を抽出することによって何かが見えてきたかは、Ⅲの関連箇所において述べていく。ここでは、上記の3つの因子が抽出されたことのみをおさえておきたい[11]。

---

9 このように判断する際、表の当該箇所を見るとともに、「よく感じる」の割合×4+「ときどき感じる」の割合×3+「あまり得意でない」の割合×2+「まったく得意でない」の割合×1によって算出された数値を「ランク」間で比較するという方法を用いた。以下で「ランク」間の差異を示したクロス集計を読みとる際も同様の方法をとっている。

10 回答者全体を一括して因子分析にかけている。各項目いずれも、「よく感じる」「ときどき感じる」「あまり感じない」「まったく感じない」の回答をこの順番で、つまり感じる程度の強い順で、それぞれ4点、3点、2点、1点として計算した。因子数は、固有値1以上の因子を抽出することによって決定している。因子の意味を解釈するに当たって、因子相互の間に相関があることが推測されるためプロマックス回転を行った。なお表中で、絶対値が0.3以上の因子負荷量の数値は太字にしてある。これらの点は、これ以外に因子分析を行う際やその結果を表示する際(表2.2.3、2.6.3、2.7.3、2.8.3、2.11.3、2.12.3)も、基本的に同じである。

11 以下で因子分析を行った際も同様に、Ⅱでは因子の意味の解釈のみを示している場合がある。

2　高校についての主観的レリバンス

調査票の次の質問群は、「あなたにとって、高校とはどのようなところですか」として、12の質問項目各々について「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の4段階で回答してもらうものである。この質問群は、高校が自分にとって意味があり関係があることとして感じられているかどうかという、生徒の「高校についての主観的レリバンス[12]」を問うた質問であると言っていいだろう。その結果が表2.2.1に示されている。

表2.2.1　高校についての主観的レリバンス(回答者全体)(単位:%)

	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う
(11)いっしょに遊んで楽しめる友だちが得られるところ	2.9	10.9	37.7	48.6
(12)いっしょにいると居心地がよく安心できる友だちが得られるところ	3.2	13.3	38.1	45.4
(7)進学・就職・資格などの試験に合格するために必要な勉強をするところ	2.3	12.3	43.9	41.4
(3)自分の進路について深く考える機会が得られるところ	1.9	13.1	43.7	41.3
(14)今後長くつき合っていけそうな友だちが得られるところ	4.0	12.9	38.9	44.2
(1)社会生活を送っていく上で必要な基本的な知識を学ぶところ	1.8	9.8	54.7	33.7
(2)社会生活を送っていく上で必要なモラル・マナーを学ぶところ	1.9	11.6	52.9	33.6
(13)有益な情報・アドバイス・援助・刺激などを与えてくれる友だちが得られるところ	4.0	17.0	44.6	34.4
(6)就職・進学にとって有益な情報やサポートが得られるところ	3.0	17.3	47.9	31.8
(8)他の人と協同してものごとを行う力を身につけるところ	3.3	17.4	47.0	32.3
(4)社会の中の様々な職業について学ぶ機会が得られるところ	3.3	24.4	46.5	25.7
(5)将来つきたい職業と深く結びついた内容を学ぶところ	7.6	33.4	39.2	19.8
(9)(1)～(8)とは直接関わらないが、興味深い内容が学べるところ	10.2	37.3	38.9	13.6
(10)自信や自己肯定感を与えてくれるところ	10.4	44.2	36.2	9.1

表2.2.2は、高校についての主観的レリバンス各項目と回答者が所属する学級の「ランク」とのクロス集計の結果を示したものである。また表2.2.3は、この質問群の各項目への回答に対する因子分析の結果を示したものである。以上の3つの表に示されているところを検討すると、以下のようなことがわかる。

まず、表2.2.1で上位に示されている(「そう思う」とする傾向の強い)2項目「(11)いっしょに遊んで楽しめる友だちが得られるところ」「(12)いっしょにいると居心地がよく安心できる友だちが得られるところ」は、表2.2.3より第1因子への因子負荷量が高い項目となっている。この第1因子は、これら2項目やそれ以外の因子負荷量の大きい項目の内容から考えて、高校を友人を得て関わりをつくる場だとする「友人関係レリバンス」を意味していると解釈できる。また表2.2.2より、「友人関係レリバンス」因子への因子負荷量が大きい4項目への回答と回答者の「ランク」との間の関係を見てみよう。すると、「(11)いっしょに遊んで楽しめる友だちが得られるところ」については有意な差が出ていないが、他の3項目「(12)いっしょにいると居心地がよく安心できる友だちが得られるところ」「(13)有益な情報・アドバイス・援助・刺激などを与えてくれる友だちが得られるところ」「(14)今後長くつき合っていけそうな友だちが得られるところ」のいずれもが、総じて「ランク」の高い学級の生徒のほうにそう思う傾向が強く見られる。逆に言えば、「ランク」の低い学級の生徒は、学校をそうした友だちが得られる場だと感じていない傾向が強いということである。

12　「主観的レリバンス」という言葉は、本田由紀(2005)『若者と仕事』(東京大学出版会)、152頁を参考にした。

表2.2.2 高校についての主観的レリバンス(「ランク」ごとのクロス集計)(単位:%)

	「ランク」	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う		「ランク」	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う
(1)社会生活を送っていく上で必要な基本的な知識を学ぶところ*	1	1.1	9.9	54.0	35.1	(8)他の人と協同してものごとを行う力を身につけるところ	1	3.2	15.5	49.4	32.0
	2	1.5	8.4	57.4	32.7		2	3.8	19.4	48.4	28.4
	3	2.8	7.5	54.4	35.3		3	3.8	17.9	47.7	30.6
	4	0.9	12.7	56.4	30.0		4	2.4	18.1	48.6	31.0
	5	2.7	10.4	51.8	35.0		5	3.3	16.4	41.6	38.7
(2)社会生活を送っていく上で必要なモラル・マナーを学ぶところ	1	1.1	10.0	53.1	35.8	(9)(1)～(8)とは直接関わらないが、興味深い内容が学べるところ*	1	9.0	38.9	39.8	12.3
	2	1.5	13.4	55.0	30.0		2	8.2	34.1	43.6	14.1
	3	2.0	10.3	53.6	34.2		3	12.9	34.9	38.2	14.1
	4	1.9	13.5	53.6	30.9		4	8.9	41.8	38.7	10.6
	5	2.7	11.2	49.5	36.6		5	11.8	37.2	34.8	16.2
(3)自分の進路について深く考える機会が得られるところ**	1	1.5	13.9	49.3	35.3	(10)自信や自己肯定感を与えてくれるところ**	1	9.9	43.1	38.4	8.6
	2	1.7	14.3	46.8	37.2		2	6.1	45.3	40.0	8.6
	3	3.2	12.7	41.3	42.9		3	10.3	43.3	34.9	11.5
	4	1.5	10.5	44.4	43.6		4	10.4	43.9	38.3	7.4
	5	1.6	13.9	37.7	46.7		5	14.7	45.4	30.6	9.3
(4)社会の中の様々な職業について学ぶ機会が得られるところ***	1	2.2	20.7	51.7	25.4	(11)いっしょに遊んで楽しめる友だちが得られるところ	1	3.4	12.3	39.4	44.9
	2	1.9	18.9	48.8	30.4		2	4.0	11.1	39.3	45.6
	3	5.2	19.7	45.2	29.9		3	3.2	11.5	37.0	48.3
	4	3.4	26.8	49.1	20.6		4	1.3	9.1	38.0	51.6
	5	3.7	34.7	39.1	22.5		5	2.6	10.3	35.1	52.0
(5)将来つきたい職業と深く結びついた内容を学ぶところ***	1	5.8	28.4	44.0	21.8	(12)いっしょにいると居心地がよく安心できる友だちが得られるところ*	1	4.3	13.5	41.4	40.8
	2	4.4	21.4	45.2	29.0		2	4.0	14.3	39.2	42.6
	3	8.2	31.4	37.8	22.7		3	3.6	14.5	39.6	42.3
	4	9.0	41.2	35.8	13.9		4	1.5	11.3	35.9	51.3
	5	10.3	43.4	34.1	12.3		5	2.8	12.7	34.9	49.6
(6)就職・進学にとって有益な情報やサポートが得られるところ**	1	1.7	15.4	50.7	32.2	(13)有益な情報・アドバイス・援助・刺激などを与えてくれる友だちが得られるところ***	1	3.8	20.3	45.5	30.3
	2	1.9	16.2	50.0	31.9		2	5.1	17.9	49.5	27.6
	3	3.6	17.1	44.9	34.4		3	6.0	18.5	42.7	32.8
	4	2.2	15.1	49.7	33.1		4	1.9	14.1	45.5	38.5
	5	5.1	22.2	45.0	27.7		5	3.3	14.3	40.4	41.9
(7)進学・就職・資格などの試験に合格するために必要な勉強をするところ	1	1.7	12.8	47.4	38.0	(14)今後長くつき合っていけそうな友だちが得られるところ*	1	5.8	13.9	39.3	41.0
	2	1.5	12.8	46.4	39.3		2	3.8	13.5	42.3	40.4
	3	3.2	11.9	41.2	43.7		3	4.8	14.7	37.3	43.2
	4	1.5	10.1	44.5	43.9		4	2.4	10.6	39.9	47.2
	5	3.5	13.7	40.8	41.9		5	3.3	11.9	36.2	48.5

表2.2.3 高校についての主観的レリバンス因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子
(12)いっしょにいると居心地がよく安心できる友だちが得られるところ	**0.964**	-0.046	-0.056
(11)いっしょに遊んで楽しめる友だちが得られるところ	**0.901**	-0.008	-0.057
(14)今後長くつき合っていけそうな友だちが得られるところ	**0.816**	-0.031	-0.004
(13)有益な情報・アドバイス・援助・刺激などを与えてくれる友だちが得られるところ	**0.715**	0.048	0.018
(8)他の人と協同してものごとを行う力を身につけるところ	**0.354**	0.113	0.298
(4)社会の中の様々な職業について学ぶ機会が得られるところ	-0.058	**0.778**	-0.005
(5)将来つきたい職業と深く結びついた内容を学ぶところ	-0.065	**0.776**	-0.087
(6)就職・進学にとって有益な情報やサポートが得られるところ	0.002	**0.742**	-0.064
(3)自分の進路について深く考える機会が得られるところ	0.019	**0.603**	0.090
(7)進学・就職・資格などの試験に合格するために必要な勉強をするところ	0.001	**0.551**	0.013
(9)(1)～(8)とは直接関わらないが、興味深い内容が学べるところ	0.108	**0.379**	0.102
(10)自信や自己肯定感を与えてくれるところ	0.228	**0.350**	0.108
(2)社会生活を送っていく上で必要なモラル・マナーを学ぶところ	-0.026	-0.065	**0.896**
(1)社会生活を送っていく上で必要な基本的な知識を学ぶところ	-0.055	0.059	**0.759**

第1因子以外の2因子についても、その意味を考えてみる。まず第2因子だが、表2.2.3に示された因子負荷量の大きい項目より、それは高校を職業等の進路に関わることを学べる場だと見る「進路レリバンス」を意味していると考えられる。また第3因子は、学校が社会生活を送る上で必要な一般的な知識・モラル・マナー等を学べる場だとする「社会生活レリバンス」を意味していると考えられる。

なお第2因子に対しては、「(9)(1)～(8)とは直接関わらないが、興味深い内容が学べるところ」及び「(10)自信や自己肯定感を与えてくれるところ」の因子負荷量もある程度大きなものとなっている。それらの内容は、「進路」と直接関係しないのだが、「社会生活」や「友人関係」と比べれば相対的に「進路」との関係が深いことが、ここでは示唆されている。

表2.2.2より、「進路レリバンス」因子への因子負荷量が大きい項目については、「(4)社会の中の様々な職業について学ぶ機会が得られるところ」「(5)将来つきたい職業と深く結びついた内容を学ぶところ」

のように特に「職業」に関わる項目では、「ランク」４・５の学級の生徒は相対的にそう感じる程度が低くなっている。これらの「ランク」の高校が、進路形成の場としては「職業」に就くことよりも進学することにウェイトをおいているためであろう。ただ、「(3) 自分の進路について深く考える機会が得られるところ」の場合は、むしろ逆に高い「ランク」の学級の生徒のほうにそう感じている傾向が強い。また、「社会生活レリバンス」因子への因子負荷量が大きい「(1) 社会生活を送っていく上で必要な基本的な知識を学ぶところ」「(2) 社会生活を送っていく上で必要なモラル・マナーを学ぶところ」については、前者は「ランク」１・２・３の学級の生徒のほうが４・５の生徒よりもそのように感じている傾向がわずかながら強くなっている。後者には、「ランク」の違いによる回答傾向の違いは読み取れず、実際統計的な有意差も出ていなかった。

3　成績自己評価

表2.3は、「あなたは学校の勉強がどのくらい得意ですか」と「成績自己評価」を尋ね、「まったく得意でない」「あまり得意でない」「ふつう」「やや得意」「とても得意」の５段階で回答してもらった結果と、回答者の所属学級の「ランク」とのクロス集計を示したものである。この表からは、回答は回答者の「ランク」のいかんにかかわらず全体として「得意でない」方に傾いているが、「ランク」間の差異に注目してみると、「ランク」が低くなるほど「得意でない」とする程度もより強まっていることがわかる。

表2.3 成績自己評価(「ランク」ごとのクロス集計)(単位：%)

	「ランク」	まったく得意でない	あまり得意でない	ふつう	やや得意	とても得意
あなたは学校の勉強がどのくらい得意ですか***	1	16.5	34.1	40.0	8.4	1.1
	2	19.5	32.8	35.7	10.7	1.3
	3	14.8	27.8	44.7	10.8	1.8
	4	10.9	32.9	38.8	16.1	1.3
	5	11.0	28.5	43.6	14.2	2.6
	合計	14.4	31.1	40.7	12.1	1.7

4　試験へのコミットメント

表2.4は、「あなたは、中間・期末テストにむけて、ふつうはどれくらいを目標として勉強していますか」と問い、「どんな成績でもかまわない」「落第点でなければいい」「平均点くらいが取れればいい」「少しでも成績上位を目指す」の４段階で回答してもらう「試験へのコミットメント」についての質問への回答結果と、回答者の所属学級の「ランク」とのクロス集計表である。この表を見るとわかるように、生徒はその所属学級の「ランク」が上がるにつれてほぼ系統的に、なるべくいい点数・順位を得ようと試験に対するコミットメントをより強めている。

表2.4 試験へのコミットメント(「ランク」ごとのクロス集計)(単位：%)

	「ランク」	どんな成績でもかまわない	落第点でなければいい	平均点くらいが取れればいい	少しでも成績上位を目指す
あなたは、中間・期末テストにむけて、ふつうはどれくらいを目標として勉強していますか***	1	5.5	25.7	31.4	37.4
	2	4.1	25.8	35.8	34.3
	3	6.0	16.7	27.8	49.4
	4	3.5	14.2	24.8	57.5
	5	3.3	7.6	30.3	58.7
	計	4.5	17.6	30.0	47.9

5　家族の文化資本

調査票の次の質問群は、回答者の「家族の文化資本[13]」を測るために、表 2.5 にある 10 項目について「ある」「ときどきある」「あまりない」「ない」のいずれか ((1)〜(3)は「ある」または「ない」) を回答してもらったものである。この表は、それらの回答と回答者の所属学級の「ランク」とのクロス集計の結果を表している。表を見るとわかるように、どの項目も総じて「ランク」が高い方が「ある」と回答する度合いが強くなっている。つまり、回答者の「家族の文化資本」の程度と所属学級の「ランク」との間には、正の方向での相関関係が見られるということである。

表2.5 家族の文化資本(「ランク」ごとのクロス集計)(単位：%)

	「ランク」	ない	あまりない	ときどきある	ある		「ランク」	ない	あまりない	ときどきある	ある
(1)家にはパソコンがある***	1	30.6			69.4	(6)小さいとき、家の人に絵本を読んでもらった***	1	16.0	16.2	23.2	44.6
	2	20.1			79.9		2	10.1	13.0	23.9	53.0
	3	11.7			88.3		3	9.9	12.3	20.8	56.9
	4	9.9			90.1		4	4.3	10.6	19.7	65.4
	5	3.5			96.5		5	6.1	8.3	20.4	65.3
	計	14.8			85.2		計	9.2	12.0	21.6	57.3
(2)家には文学作品や詩集、絵画などがある***	1	69.3			30.7	(7)小学校の低学年の時に、家の人が勉強や宿題をみてくれた*	1	13.2	17.9	31.3	37.7
	2	71.6			28.4		2	12.4	14.5	34.9	38.1
	3	62.0			38.0		3	13.8	15.8	27.7	42.7
	4	53.0			47.0		4	10.8	18.3	30.0	40.9
	5	42.8			57.2		5	13.7	20.5	23.8	42.0
	計	59.3			40.7		計	12.8	17.5	29.3	40.4
(3)スポーツ新聞以外の新聞をとっている***	1	36.5			63.5	(8)今でも、家の人が勉強や宿題をみてくれる**	1	74.6	14.9	7.5	3.0
	2	19.4			80.6		2	72.2	17.3	7.2	3.4
	3	21.4			78.6		3	76.0	12.3	8.1	3.6
	4	10.3			89.7		4	71.9	17.0	6.2	4.9
	5	8.6			91.4		5	65.1	18.5	11.5	4.9
	計	18.9			81.1		計	71.8	16.0	8.2	4.0
(4)家の人が手作りでお菓子をつくってくれる**	1	39.8	23.9	26.9	9.5	(9)家の人はテレビでニュース番組を見る*	1	2.6	9.0	20.5	68.0
	2	36.1	25.3	27.2	11.4		2	4.0	8.0	23.0	65.0
	3	35.9	23.2	27.2	13.7		3	3.8	5.6	21.0	69.6
	4	31.4	23.9	30.1	14.6		4	1.7	5.4	20.0	73.0
	5	31.9	19.8	30.0	18.3		5	2.9	5.9	16.8	74.4
	計	34.9	23.1	28.3	13.7		計	3.0	6.7	20.2	70.1
(5)家の人が博物館や美術館に連れて行ってくれる***	1	71.9	17.9	8.1	2.1	(10)家の人とよく政治や社会問題について話し合う***	1	42.8	27.2	22.8	7.2
	2	69.7	19.5	7.6	3.2		2	43.5	29.9	20.3	6.3
	3	59.7	20.8	12.3	7.1		3	36.4	25.3	28.1	10.1
	4	57.2	21.5	15.2	6.1		4	23.4	30.7	32.4	13.5
	5	43.7	27.2	18.9	10.3		5	23.8	32.2	30.0	14.1
	計	59.9	21.6	12.6	5.9		計	33.7	29.1	26.8	10.3

6　自己意識・対他関係意識

表 2.6.1 は、「自分で自分のことを考えてみて、次にあげることは、あなたにどのくらいあてはまると思いますか」と、その表にある 30 項目各々について「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の 4 段階で回答してもらった結果を示している。それらはおおよそ、自分自身のことをどのように見ているか、あるいは自分が周囲の人たちとどのような関係を取り結んでいると認識しているかという「自己意識・対他関係意識」について尋ねた一連の質問である。

13　「文化資本」は、フランスの社会学者 P・ブルデューの言葉。教育達成や職業達成の上での有利さをもたらす、ある人が身につけている文化的資源。家族など、その人が成長し生活する社会環境の中で徐々に伝達されていくものである。その多寡は、その人が所属する社会階層の高低とおおよそ対応している。本調査の調査票では、回答者が家族から伝達されてきた文化資本を測定することをねらって、本文にある 10 の質問項目を設けた。

表2.6.1 自己意識・対他関係意識(回答者全体)(単位:%)

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
(20)自分の問題は、最後は、自分で解決しなければならないのだと思う	1.9	6.4	32.2	59.5
(24)自分がどう生きるかは自分自身で決めたいと思う	1.3	7.5	34.7	56.4
(9)人の役に立てたり人と助け合えたりすると、うれしくなる	3.1	9.6	39.9	47.4
(6)自分の将来に関して、不安を感じる	4.7	13.5	39.1	42.6
(27)自分の力ではどうすることもできないことがあると感じている	6.0	15.0	39.5	39.5
(21)必要があれば、やったことがない新しいことにもチャレンジする	3.1	18.2	40.4	38.3
(10)友だちと相談しあったり、力を合わせたりして、目標に向かってがんばるのが好きだ	5.7	18.7	40.9	34.7
(30)豊かな生活をおくっている	6.5	21.6	45.7	26.2
(1)私は今、幸せだと思う	7.9	22.0	44.7	25.4
(19)他の人とつながり合って生きていると感じている	5.8	25.2	44.9	24.2
(22)やると決めたことは最後までやりとおす	4.3	29.7	42.6	23.4
(14)友だちから、いろいろ相談されたり、困ったことを話されたりする	6.5	29.3	43.1	21.1
(23)むずかしいことにぶつかった時こそ、がんばるほうだ	6.5	37.0	36.3	20.2
(17)嫌いな人・苦手な人とも、うまくつき合う努力をしている	12.4	27.3	40.4	20.0
(11)困ったことや悩みごとがあるときに、相談できる人がたくさんいる	9.8	32.1	38.5	19.6
(4)私は自分らしく生きていると思う	11.0	29.4	40.1	19.5
(28)何ごとにつけ他人に負けないようにがんばるほうだ	6.3	32.9	42.1	18.8
(15)自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	9.3	37.9	34.7	18.2
(8)知らない場所で起こった悲しいニュースを見聞きすると、自分も悲しくなる	10.9	25.9	45.2	18.0
(18)人といっしょにいるより、一人でいるほうが好きだ	17.8	36.8	30.5	14.9
(29)自分のほしいものが手に入らないと落ち着かない	14.9	41.1	29.0	14.9
(13)自分が困っているときには、だいたい誰かが助けてくれる	6.8	28.8	50.1	14.2
(16)友だちが間違ったことをしたら指摘している	8.0	37.6	41.5	12.9
(25)自分の目標実現のために計画的に行動するほうだ	12.4	45.1	30.6	11.9
(5)今のままの自分でよいと感じている	26.2	42.9	21.1	9.8
(12)誰かにいろいろ聞かれたり、誘われて一緒に行動したりするのは面倒だ	22.2	42.6	25.9	9.3
(2)私は他の人に比べてすぐれているところがある	17.7	44.7	28.9	8.7
(3)自分が好きである	24.0	42.3	25.6	8.0
(26)自分の人生は自分の思いどおりにおくることができると感じている	25.2	49.2	18.2	7.4
(7)まわりの人が困ったり悩んだりしていても、平気でいられる	27.9	53.8	13.5	4.9

表2.6.1にあるように、これら30項目の中では、「(20)自分の問題は、最後は、自分で解決しなければならないのだと思う」及び「(24)自分がどう生きるかは自分自身で決めたいと思う」の2項目で、自分自身に「あてはまる」とする傾向が最も強くなっている。 そのことは、“自分自身のことは自分で決め自分で解決していきたい・いかなければならない”という自律志向をもつ高校生が比較的多いことを意味していると考えていいだろう。しかしその反面、「(26)自分の人生は自分の思いどおりにおくることができると感じている」は、「あてはまる」と答える傾向が下位から第2位の項目となっている。また、「(6)自分の将来に関して、不安を感じる」や「(27)自分の力ではどうすることもできないことがあると感じている」に対して「あてはまる」とする回答も多い。つまり、仮に上記のように高校生が自律志向をもっていたとしても、必ずしもその志向する通りに順調にやれているというわけではない、ということである。

一方、「(9)人の役に立てたり人と助け合えたりすると、うれしくなる」、「(10)友だちと相談しあったり、力を合わせたりして、目標に向かってがんばるのが好きだ」のような他者との共同・協同への志向性を意味する項目に対しても、「あてはまる」と回答する割合は決して少なくない。「(7)まわりの人が困ったり悩んだりしていても、平気でいられる」のような共同・協同性志向と背反する内容の項目に対しては、「あてまらない」の回答傾向が強い。先の自律志向は、場合によってはこうした共同・協同性志向と逆行することもあるだろうが、本調査の回答者の場合全体としては、そういうことはなくこれら2つの志向性が併存していると見てよさそうである。

なお、「(30)豊かな生活をおくっている」「(1) 私は今、幸せだと思う」も「あてはまる」とする回答傾向が比較的強い。生徒は全体としては、自分が今置かれている境遇について恵まれていると感じている傾向があるように思われる。

表2.6.2 自己意識・対他関係意識(「ランク」ごとのクロス集計)(単位:%)

	「ランク」	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる		「ランク」	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
(1)私は今、幸せだと思う***	1	9.2	26.0	44.6	20.3	(16)友だちが間違ったことをしたら指摘している**	1	10.7	38.0	38.8	12.6
	2	9.2	30.0	40.1	20.6		2	8.4	40.3	40.9	10.3
	3	8.9	20.6	44.2	26.3		3	9.1	38.2	36.8	15.9
	4	5.4	14.4	47.6	32.6		4	4.7	35.9	48.2	11.2
	5	6.8	19.3	46.8	27.2		5	7.1	36.1	42.9	13.9
(2)私は他の人に比べてすぐれているところがある***	1	25.6	44.1	24.7	5.5	(17)嫌いな人・苦手な人とも、うまくつき合う努力をしている*	1	12.6	27.7	40.0	19.8
	2	16.8	49.6	23.5	10.1		2	11.4	31.4	38.1	19.1
	3	18.3	45.3	27.0	9.3		3	16.9	24.7	38.8	19.7
	4	14.0	43.7	31.6	10.8		4	9.7	28.0	44.7	17.6
	5	14.5	41.2	36.4	7.9		5	11.4	25.3	40.3	23.1
(3)自分が好きである***	1	31.5	45.0	19.3	4.3	(18)人といっしょにいるより、一人でいるほうが好きだ**	1	22.2	32.9	28.8	16.1
	2	26.2	45.2	20.9	7.6		2	17.9	39.6	31.8	10.7
	3	23.4	40.6	25.9	10.1		3	19.0	35.9	27.2	17.9
	4	20.8	39.7	31.3	8.2		4	16.4	36.4	33.0	14.2
	5	19.2	41.3	30.0	9.6		5	14.2	39.0	31.6	15.3
(4)私は自分らしく生きていると思う	1	14.1	28.5	40.5	16.9	(19)他の人とつながり合って生きていると感じている***	1	8.2	27.1	41.9	22.8
	2	9.2	32.4	41.2	17.2		2	6.3	30.9	42.6	20.2
	3	10.1	29.2	38.7	21.9		3	7.0	26.0	43.2	23.8
	4	10.3	29.3	42.2	18.1		4	3.2	18.9	49.7	28.2
	5	11.4	27.6	38.3	22.7		5	4.2	23.1	46.8	25.9
(5)今のままの自分でよいと感じている	1	26.2	42.3	21.9	9.6	(20)自分の問題は、最後は、自分で解決しなければならないのだと思う***	1	3.0	9.6	33.5	53.8
	2	25.8	42.9	21.4	9.9		2	2.5	7.2	38.1	52.2
	3	26.2	42.5	19.8	11.5		3	2.2	6.3	32.1	59.4
	4	22.6	45.6	22.6	9.2		4	0.6	4.9	30.8	63.7
	5	29.5	41.5	20.1	8.9		5	1.1	4.2	27.5	67.2
(6)自分の将来に関して、不安を感じる***	1	5.5	14.1	37.3	43.1	(21)必要があれば、やったことがない新しいことにもチャレンジする**	1	5.4	21.0	39.0	34.7
	2	5.3	17.5	44.2	33.1		2	2.7	20.0	42.7	34.5
	3	7.0	13.5	37.6	41.8		3	4.0	18.1	40.9	37.1
	4	3.2	10.6	39.0	47.2		4	1.7	17.4	40.3	40.6
	5	2.8	12.1	37.6	47.5		5	2.0	15.0	39.1	43.9
(7)まわりの人が困ったり悩んだりしていても、平気でいられる***	1	36.6	47.9	11.5	4.0	(22)やると決めたことは最後までやりとおす	1	4.7	30.1	41.5	23.7
	2	27.0	58.9	10.5	3.6		2	4.6	30.0	42.6	22.8
	3	31.1	48.1	14.7	6.1		3	6.5	28.9	41.6	23.0
	4	22.5	58.7	13.6	5.2		4	1.9	28.8	44.5	24.7
	5	22.6	55.5	16.8	5.2		5	3.7	30.6	43.0	22.7
(8)知らない場所で起こった悲しいニュースを見聞きすると、自分も悲しくなる**	1	12.1	27.2	42.5	18.3	(23)むずかしいことにぶつかった時こそ、がんばるほうだ*	1	9.2	37.4	36.8	16.7
	2	10.1	26.7	45.3	17.9		2	5.3	39.1	36.8	18.8
	3	15.6	23.8	45.3	15.4		3	7.3	39.3	33.6	19.8
	4	6.7	24.3	48.4	20.6		4	3.9	35.9	39.4	20.9
	5	10.1	27.5	44.6	17.8		5	6.8	33.4	35.6	24.2
(9)人の役に立てたり人と助け合えたりすると、うれしくなる***	1	4.3	12.2	37.4	46.2	(24)自分がどう生きるかは自分自身で決めたいと思う***	1	2.6	9.4	35.8	52.2
	2	3.0	9.7	44.7	42.6		2	1.9	10.3	37.3	50.4
	3	5.0	12.0	37.2	45.8		3	1.4	7.3	34.5	56.8
	4	1.3	6.3	38.4	54.0		4	0.0	5.2	36.8	58.1
	5	2.0	7.7	41.8	48.4		5	0.9	5.7	29.9	63.5
(10)友だちと相談しあったり、力を合わせたりして、目標に向かってがんばるのが好きだ**	1	7.7	18.1	42.3	31.9	(25)自分の目標実現のために計画的に行動するほうだ	1	11.5	43.7	32.8	11.9
	2	5.3	17.3	44.4	33.1		2	12.3	46.7	30.0	11.0
	3	7.7	20.4	40.4	31.5		3	15.9	43.9	28.2	11.9
	4	3.0	18.7	37.8	40.6		4	10.3	50.1	27.5	12.0
	5	4.8	18.7	39.8	36.7		5	11.9	41.5	34.1	12.5
(11)困ったことや悩みごとがあるときに、相談できる人がたくさんいる	1	12.1	30.9	35.7	21.3	(26)自分の人生は自分の思いどおりにおくることができると感じている	1	26.6	49.7	17.3	6.4
	2	7.0	33.4	38.9	20.7		2	23.8	48.8	21.1	6.3
	3	11.9	33.3	37.0	17.8		3	26.6	48.3	16.1	8.9
	4	7.7	31.1	41.0	20.2		4	22.8	52.7	17.8	6.7
	5	10.3	31.7	39.8	18.2		5	25.9	47.0	18.9	8.3
(12)誰かにいろいろ聞かれたり、誘われて一緒に行動したりするのは面倒だ*	1	26.3	42.7	22.4	8.5	(27)自分の力ではどうすることもできないことがあると感じている**	1	7.4	17.9	38.1	36.6
	2	23.8	43.2	25.9	7.2		2	6.3	16.9	44.9	31.9
	3	22.0	39.1	26.0	12.9		3	6.2	14.2	36.7	42.9
	4	21.2	42.3	27.6	8.9		4	5.4	12.1	39.9	42.7
	5	18.2	45.5	27.3	9.0		5	4.8	14.0	38.2	43.0
(13)自分が困っているときには、だいたい誰かが助けてくれる*	1	7.9	27.1	49.1	15.8	(28)何ごとにつけ他人に負けないようにがんばるほうだ	1	8.1	32.8	40.3	18.8
	2	6.8	30.6	51.1	11.6		2	5.5	34.2	43.8	16.5
	3	7.7	33.3	44.2	14.7		3	8.3	33.7	39.7	18.3
	4	4.3	25.7	55.9	14.0		4	3.0	32.3	45.4	19.4
	5	7.3	27.3	50.5	14.8		5	6.2	31.4	41.5	20.9
(14)友だちから、いろいろ相談されたり、困ったことを話されたりする	1	7.4	25.5	43.2	23.8	(29)自分のほしいものが手に入らないと落ち着かない	1	15.1	40.6	28.1	16.2
	2	5.9	30.2	43.7	20.3		2	12.0	43.8	32.6	11.6
	3	8.1	32.1	39.2	20.6		3	15.4	39.8	28.9	15.8
	4	4.1	28.8	46.2	20.9		4	15.2	41.8	28.8	14.2
	5	7.0	29.7	43.4	20.0		5	16.7	39.9	27.1	16.3
(15)自分の考えをはっきり相手に伝えることができる*	1	11.5	38.1	33.2	17.2	(30)豊かな生活をおくっている***	1	10.4	27.5	40.5	21.5
	2	7.2	38.3	37.2	17.3		2	6.5	27.3	49.4	16.8
	3	10.3	38.7	32.3	18.7		3	7.3	21.8	44.8	26.0
	4	5.6	42.6	34.6	17.2		4	3.9	18.5	48.3	29.4
	5	11.6	32.5	36.0	20.0		5	4.6	14.0	45.6	35.8

表2.6.3 自己意識・対他関係意識因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子	第7因子
(3)自分が好きである	**0.796**	0.034	0.119	-0.113	-0.115	-0.135	0.017
(4)私は自分らしく生きていると思う	**0.727**	0.005	-0.087	-0.004	0.117	0.021	-0.205
(5)今のままの自分でよいと感じている	**0.612**	0.002	-0.156	-0.004	0.075	-0.138	-0.076
(1)私は今、幸せだと思う	**0.589**	-0.104	0.139	0.195	-0.069	0.082	-0.011
(2)私は他の人に比べてすぐれているところがある	**0.464**	0.137	0.100	-0.134	-0.028	-0.069	0.165
(30)豊かな生活をおくっている	**0.357**	-0.107	0.063	0.084	-0.073	0.174	0.134
(19)他の人とつながり合って生きていると感じている	0.207	-0.023	0.172	0.202	0.087	0.180	-0.018
(23)むずかしいことにぶつかった時こそ、がんばるほうだ	0.002	**0.764**	0.028	0.113	-0.003	-0.007	-0.022
(22)やると決めたことは最後までやりとおす	-0.018	**0.711**	-0.036	0.089	0.002	0.051	-0.037
(28)何ごとにつけ他人に負けないようにがんばるほうだ	-0.022	**0.507**	0.190	0.013	-0.045	-0.027	0.247
(25)自分の目標実現のために計画的に行動するほうだ	0.006	**0.487**	-0.049	-0.045	0.011	-0.008	0.264
(21)必要があれば、やったことがない新しいことにもチャレンジする	0.096	**0.414**	0.087	-0.048	0.040	0.266	-0.104
(9)人の役に立てたり人と助け合えたりすると、うれしくなる	0.104	-0.030	**0.810**	-0.075	-0.079	0.065	-0.061
(8)知らない場所で起こった悲しいニュースを見聞きすると、自分も悲しくなる	-0.027	0.007	**0.614**	-0.093	0.061	-0.028	0.042
(10)友だちと相談しあったり、力を合わせたりして、目標に向かってがんばるのが好きだ	-0.006	0.126	**0.548**	0.169	0.071	-0.051	0.025
(7)まわりの人が困ったり悩んだりしていても、平気でいられる	0.210	-0.084	**-0.355**	**-0.337**	-0.043	0.119	0.244
(17)嫌いな人・苦手な人とも、うまくつき合う努力をしている	0.055	0.097	0.259	0.002	0.188	0.005	-0.083
(18)人といっしょにいるより、一人でいるほうが好きだ	-0.035	-0.052	0.076	**-0.823**	0.094	0.164	0.150
(12)誰かにいろいろ聞かれたり、誘われて一緒に行動したりするのは面倒だ	0.070	-0.077	0.031	**-0.749**	0.104	0.111	0.118
(11)困ったことや悩みごとがあるときに、相談できる人がたくさんいる	0.026	-0.020	0.007	**0.396**	**0.318**	0.018	0.163
(15)自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	0.065	0.062	-0.149	-0.060	**0.776**	-0.036	-0.105
(16)友だちが間違ったことをしたら指摘している	0.049	0.013	0.170	-0.255	**0.740**	-0.082	-0.160
(14)友だちから、いろいろ相談されたり、困ったことを話されたりする	-0.170	-0.025	0.120	0.070	**0.573**	0.049	0.069
(13)自分が困っているときには、だいたい誰かが助けてくれる	0.076	-0.155	0.026	0.263	**0.303**	0.119	0.174
(20)自分の問題は、最後は、自分で解決しなければならないのだと思う	0.009	0.213	-0.040	-0.066	0.001	**0.611**	-0.112
(24)自分がどう生きるかは自分自身で決めたいと思う	-0.034	**0.300**	-0.153	-0.006	0.003	**0.451**	0.089
(27)自分の力ではどうすることもできないことがあると感じている	-0.100	-0.068	0.036	-0.204	-0.029	**0.420**	0.159
(6)自分の将来に関して、不安を感じる	-0.181	-0.076	0.269	-0.153	-0.043	0.288	0.067
(29)自分のほしいものが手に入らないと落ち着かない	-0.073	0.057	-0.011	-0.162	-0.095	0.097	**0.427**
(26)自分の人生は自分の思いどおりにおくることができると感じている	0.204	0.204	-0.114	-0.082	0.097	-0.162	**0.336**

表2.6.2は、自己意識・対他関係意識に関する各項目の回答と回答者が所属する学級の「ランク」とのクロス集計の結果を示したものである。前述の自律志向に関わる「(20)自分の問題は、最後は、自分で解決しなければならないのだと思う」「(24)自分がどう生きるかは自分自身で決めたいと思う」は、高「ランク」の学級の生徒であるほどそう思っている傾向が見られる。と同時に、「(6)自分の将来に関して、不安を感じる」「(27)自分の力ではどうすることもできないことがあると感じている」傾向も、相対的に彼/彼女らに強くなっている。また、他者との共同・協同志向性を含意する「(9)人の役に立てたり人と助け合えたりすると、うれしくなる」「(10)友だちと相談しあったり、力を合わせたりして、目標に向かってがんば

るのが好きだ」も、高「ランク」で「あてはまる」の回答の割合が高い。また、「(1) 私は今、幸せだと思う」「(30)豊かな生活をおくっている」についても、高「ランク」の生徒の間でそう感じている傾向が強い。

表2.6.3は、この質問群の各項目への回答に対する因子分析の結果を示したものである。各因子への因子負荷量の大きい項目の内容から判断して、第1因子「自己肯定感」、第2因子「目標達成志向」、第3因子「共同・協同志向」、第4因子「社交性」、第5因子「全面的関係性志向」、第6因子「自律性志向」、第7因子「欲求充足志向」と解釈した。大きく分けて、自己意識に関する因子が第1・2・6・7因子、対他関係意識に関する因子が第3・4・5因子。その上で前者は、自分自身をどう捉えているかという文字通りの自己意識に関する第1因子、自分の立てた目標に対するスタンスに関する第2因子、自分の人生の自己統御に関する第6因子、自分の欲求への向き合い方に関する第7因子と分けることができるだろう。また後者は、一般に他者との共同性・協同性を大切に思う意識を表す第3因子、出会う人と広く関わりをもとうとする意識を表す第4因子、特定の個人との密な相互コミュニケーションや相互援助の実現を表す第4因子と分かれる。

7　社会観・社会規範意識

表2.7.1に示されているのは、「あなたは、次の(1)～(20)のような考え方についてどう思いますか」と、その表にある20項目各々について「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の4段階で回答してもらった結果である。それらはおおよそ、社会やその中で生きる人間のことをどのように見ているか、あるいは社会はどうあるべきでありその中で生きる人間はどうふるまうべきであると見ているかという、「社会観・社会規範意識」について尋ねた質問であると言っていいだろう。

表2.7.1　社会観・社会規範意識(回答者全体)(単位:%)

	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う
(11)自分の能力と努力によって実績を上げた人が高い収入や地位を得られるのは、良いことだ	1.9	6.3	34.4	57.4
(17)豊かな人と貧しい人との差が大きすぎるのは良くない	4.5	11.4	33.8	50.3
(1)誰かが困っていたら、どんな小さなことでも、何か手助けをするべきだ	2.5	10.2	47.7	39.5
(10)仕事には、その仕事にふさわしい能力をもっている人がつくべきだ	4.0	18.3	43.8	34.0
(16)今の世の中では、その人の実績によって収入や地位が決まる	4.8	17.7	45.3	32.2
(14)人間は、生きていることだけで十分価値がある	7.4	20.6	35.9	36.0
(13)自分の能力を発揮してどれだけの実績を上げたかによってその人の価値が判断されるのは、良いことだ	5.6	26.5	39.5	28.5
(8)お金がたくさんあったほうが幸せに暮らせる	8.7	20.1	43.1	28.1
(19)理由は何であれ今生活に困っている人には、政府が援助をすべきだ	5.7	26.1	42.3	25.9
(12)チャンスや運に恵まれて実績を上げた人が高い収入や地位を得られるのは、良いことだ	8.9	30.4	39.3	21.3
(15)人間の生まれつきの能力にはそれほど大きな差はない	16.0	32.9	29.7	21.5
(3)みんな、自分のことが大切で、他の人のことなど真剣に考えてはいない	12.5	43.9	33.1	10.4
(6)将来のためにがまんして努力するより、今を楽しく過ごすほうがいい	15.6	42.4	29.8	12.2
(18)人が貧乏になるのは、その人のせいである	16.4	46.0	26.6	11.0
(20)福祉サービスを充実させるために、税金を上げることもやむをえない	18.3	40.7	31.8	9.2
(5)みんなが幸せになることよりも、今、自分が幸せであることが大切だ	14.3	49.5	28.9	7.3
(2)他人に迷惑をかけなければ、何をしてもいい	24.1	44.5	21.0	10.4
(9)成功するためには、努力より運が重要だ	20.1	50.6	21.9	7.4
(7)一流といわれる会社に入ると、人生の成功者だ	33.0	37.8	19.8	9.4
(4)心から信用できる人など、この世にはいない	35.9	37.9	17.0	9.3

この表に示されているように、これら20項目の中で「そう思う」とする回答傾向が最も強くなっているのは、「(11) 自分の能力と努力によって実績を上げた人が高い収入や地位を得られるのは、良いことだ」

である。これは、人々の間で社会的地位や報酬をどのように配分するかに関する基準のひとつであり、またそのことと関わって人間やその行為をどのように評価するかの基準のひとつである「能力主義」の考え方の一要素をなすものである。能力主義はこれ以外に、「(10)仕事には、その仕事にふさわしい能力をもっている人がつくべきだ」、「(13)自分の能力を発揮してどれだけの実績を上げたかによってその人の価値が判断されるのは、良いことだ」をその構成要素としている[14]。これら2項目も、「そう思う」との回答の割合がそれぞれ第4位・第7位の項目である。以上のことはつまり、能力主義を肯定する意識が高校生の間に広く存在していることを示している、と考えてよかろう。また、「(16)今の世の中では、その人の実績によって収入や地位が決まる」が第5位となっていることからは、現在の社会が実際に能力主義原理にもとづいて営まれていると認識されていることもうかがわれる。

しかしその一方で、「(17)豊かな人と貧しい人との差が大きすぎるのは良くない」が第2位、「(1)誰かが困っていたら、どんな小さなことでも、何か手助けをするべきだ」が第3位、「(14)人間は、生きていることだけで十分価値がある」が第6位となっている。つまり、生徒たちには、人々の間の大きすぎる格差の忌避、困難な境遇におかれた人々への援助の必要性、能力主義の基準によらない人の存在それ自体の価値といった感覚もまた少なからず見られるのであり、彼/彼女らは、能力、その形成と発揮のための努力、その結果としての実績によって社会的地位や報酬が配分され人が評価されさえすればいいと考えているわけでは必ずしもない。

表2.7.2は、社会観・社会規範意識に関する各項目への回答が回答者の所属学級「ランク」によってどのように異なっているかを見るためのクロス集計表である。先に能力主義の構成要素と関わるとした3項目のうち「(10)仕事には、その仕事にふさわしい能力をもっている人がつくべきだ」「(11) 自分の能力と努力によって実績を上げた人が高い収入や地位を得られるのは、良いことだ」において「ランク」間の統計的有意差が出ており、どちらも「そう思う」傾向が「ランク」5で最も強く、「ランク」1で最も弱くなっている。逆に、「(14)人間は、生きていることだけで十分価値がある」「(17)豊かな人と貧しい人との差が大きすぎるのは良くない」では、おおよそ「ランク」が高くなるにつれて「そう思わない」傾向が強くなっている。「(15)人間の生まれつきの能力にはそれほど大きな差はない」「(19)理由は何であれ今生活に困っている人には、政府が援助をすべきだ」でもそうである。

表2.7.3は、この質問群の各項目への回答に対する因子分析の結果を示したものである[15]。第1因子は、他者に対する不信感とそれ故の自己中心性を意味する「対他不信」因子、第2因子は、前述のように能力主義の構成要素に当たる3項目の因子負荷量が大きい「能力主義肯定」因子、第3因子は、人々の間の過剰な格差を忌避し、困難な境遇におかれた人々への援助が必要だとする意識と強く関連がある「平等主義肯定」因子、第4因子は「成功肯定」因子、第5因子は、努力するのではなく成りゆきを運にまかせその時々を自分の好きなように楽しめばいいとする「反努力志向」、第6因子は、人間の生まれつきの優劣を否定し生存そのものに価値があると見る「人間の尊厳尊重志向」、と解釈した。因子名として付けたこれらの言葉を用いて前段落で述べたことを言い直せば、高「ランク」の学級の生徒は「能力主義肯定」の傾向が強く「平等主義肯定」や「人間の尊厳尊重志向」は相対的に弱い、低「ランク」の生徒は逆に「能力主義肯定」傾向は弱く「平等主義肯定」「人間の尊厳尊重志向」が相対的に強い、ということになるだろう。

---

14 能力主義がこれら3つを構成要素としているとの考え方は、立岩真也(2003)「少しややこしく能力主義を考える(1)〜(3)」国民教育文化総合研究所『季刊 forum 教育と文化』31、32、33の議論に依拠している。立岩はその中で、能力主義には次のような3つの「意味」があるとしている。すなわち、①「財の配分原理としての能力主義」、②「人の価値に関わるものとしての能力主義」、③「適材適所」という意味での能力主義、である。①の意味での能力主義は、何かを生産した人が、それを生産したということに応じて利益を取得できるのであり、したがってより能力がありより多く生産できる人がそれに応じて多くの利益を取得できるのは正当であるという論理であり、質問項目「(11)自分の能力と努力によって実績を上げた人が高い収入や地位を得られるのは、良いことだ」がそれに当たる。②の能力主義は、どのような能力がありそれを発揮して何を成し遂げたかによってその人の価値が決まるのは正当であるという論理であり、質問項目「(13)自分の能力を発揮してどれだけの実績を上げたかによってその人の価値が判断されるのは、良いことだ」に相当する。③の能力主義は、ある仕事は、それをすることができる能力を他の人以上にもっている人にさせるべきであるという論理であり、質問項目「(10)仕事には、その仕事にふさわしい能力をもっている人がつくべきだ」と対応する。

15 抽出後の共通性が非常に低い(0.1未満)項目「(20)福祉サービスを充実させるために、税金を上げることもやむをえない」は外して因子分析を行った。

表2.7.2 社会観・社会規範意識(「ランク」ごとのクロス集計)(単位:%)

	「ランク」	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う		「ランク」	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う
(1)誰かが困っていたら、どんな小さなことでも、何か手助けをするべきだ	1	2.5	10.8	44.2	42.5	(11)自分の能力と努力によって実績を上げた人が高い収入や地位を得られるのは、良いことだ***	1	5.6	7.7	39.5	47.2
	2	1.9	10.5	47.4	40.2		2	0.6	7.0	39.0	53.4
	3	3.6	9.9	47.7	38.8		3	2.0	7.2	32.5	58.3
	4	2.8	8.6	50.8	37.8		4	0.6	5.0	33.2	61.2
	5	1.8	11.1	48.6	38.4		5	0.9	4.6	29.0	65.5
(2)他人に迷惑をかけなければ、何をしてもいい	1	27.2	42.1	22.6	8.1	(12)チャンスや運に恵まれて実績を上げた人が高い収入や地位を得られるのは、良いことだ	1	11.7	29.5	40.1	18.7
	2	23.3	42.7	22.8	11.2		2	7.8	29.0	43.6	19.5
	3	24.2	42.7	19.6	13.6		3	10.0	31.3	36.3	22.3
	4	24.7	48.5	17.8	9.0		4	7.3	32.9	35.9	23.9
	5	21.5	46.2	22.3	10.0		5	7.9	29.6	40.5	22.0
(3)みんな、自分のことが大切で、他の人のことなど真剣に考えてはいない*	1	15.7	40.6	33.1	10.6	(13)自分の能力を発揮してどれだけの実績を上げたかによってその人の価値が判断されるのは、良いことだ	1	7.6	25.9	40.8	25.7
	2	10.0	49.8	31.6	8.7		2	5.1	28.5	39.4	27.0
	3	12.5	40.2	33.7	13.5		3	5.8	25.3	39.2	29.7
	4	12.0	46.7	32.5	8.8		4	5.0	26.3	40.0	28.7
	5	12.4	42.7	34.6	10.4		5	4.4	26.3	38.3	30.9
(4)心から信用できる人など、この世にはいない	1	37.4	35.2	18.3	9.1	(14)人間は、生きていることだけで十分価値がある***	1	6.2	20.9	33.2	39.8
	2	35.2	42.4	14.6	7.8		2	3.8	17.9	39.8	38.5
	3	34.5	37.3	16.9	11.4		3	8.7	18.7	36.4	36.2
	4	38.6	36.9	16.5	7.9		4	8.2	18.5	38.4	35.0
	5	34.2	37.7	18.3	9.8		5	9.8	26.5	32.4	31.3
(5)みんなが幸せになることよりも、今、自分が幸せであることが大切だ	1	16.6	48.1	28.5	6.8	(15)人間の生まれつきの能力にはそれほど大きな差はない***	1	14.1	26.1	34.4	25.4
	2	12.7	46.8	33.3	7.2		2	9.3	31.3	35.5	23.9
	3	14.5	47.3	28.7	9.5		3	17.7	33.4	29.0	19.9
	4	14.7	52.4	28.2	4.7		4	15.3	37.0	28.6	19.1
	5	13.1	52.8	26.3	7.8		5	22.3	36.2	22.0	19.6
(6)将来のためにがまんして努力するより、今を楽しく過ごすほうがいい***	1	12.8	39.1	33.4	14.7	(16)今の世の中では、その人の実績によって収入や地位が決まる	1	5.6	17.8	45.4	31.3
	2	11.2	41.6	32.8	14.4		2	3.8	19.5	48.6	28.1
	3	14.9	39.8	31.4	13.9		3	4.0	19.3	43.9	32.8
	4	16.8	45.6	28.1	9.5		4	5.2	16.3	46.2	32.3
	5	21.6	45.8	24.0	8.7		5	5.5	15.7	43.0	35.8
(7)一流といわれる会社に入ると、人生の成功者だ**	1	36.9	36.7	17.2	9.1	(17)豊かな人と貧しい人との差が大きすぎるのは良くない***	1	4.3	7.4	35.1	53.2
	2	32.8	40.3	18.9	8.1		2	3.4	9.9	34.9	51.8
	3	36.9	36.9	17.9	8.4		3	4.6	10.8	30.2	54.4
	4	32.8	39.5	19.7	7.9		4	3.6	10.7	32.6	53.0
	5	26.3	36.1	24.5	13.1		5	6.3	17.1	36.2	40.3
(8)お金がたくさんあったほうが幸せに暮らせる	1	9.6	21.2	39.9	29.3	(18)人が貧乏になるのは、その人のせいである**	1	20.2	47.4	21.9	10.4
	2	7.8	23.3	43.6	25.4		2	13.6	45.9	25.9	14.6
	3	8.3	20.9	40.4	30.4		3	16.3	45.1	27.6	11.1
	4	9.0	18.7	48.3	24.0		4	17.0	49.8	24.6	8.6
	5	8.9	17.0	43.4	30.8		5	15.2	42.6	32.0	10.2
(9)成功するためには、努力より運が重要だ	1	23.2	48.3	20.6	7.9	(19)理由は何であれ今生活に困っている人には、政府が援助をすべきだ***	1	5.3	23.2	37.7	33.7
	2	19.5	51.8	22.0	6.8		2	4.7	26.4	43.8	25.2
	3	17.7	49.0	23.1	10.2		3	4.8	27.3	39.8	28.1
	4	18.3	54.2	22.6	4.9		4	6.0	24.0	47.9	22.0
	5	21.7	49.9	21.2	7.2		5	7.4	29.2	42.5	20.9
(10)仕事には、その仕事にふさわしい能力をもっている人がつくべきだ***	1	7.2	20.0	43.9	28.8	(20)福祉サービスを充実させるために、税金を上げることもやむをえない***	1	22.0	40.5	29.0	8.5
	2	3.0	20.1	44.7	32.2		2	18.6	43.1	31.5	6.8
	3	3.0	18.0	43.4	35.6		3	21.3	45.2	25.1	8.4
	4	3.2	20.1	46.7	30.0		4	15.7	37.4	37.4	9.5
	5	3.5	13.8	40.8	41.9		5	14.4	37.4	35.9	12.2

表2.7.3 社会観・社会規範意識因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子
(3)みんな、自分のことが大切で、他の人のことなど真剣に考えてはいない	**0.719**	0.100	0.096	-0.126	-0.012	-0.030
(4)心から信用できる人など、この世にはいない	**0.691**	-0.064	0.080	-0.071	0.014	-0.081
(5)みんなが幸せになることよりも、今、自分が幸せであることが大切だ	**0.481**	-0.011	-0.108	0.181	0.055	0.105
(11)自分の能力と努力によって実績を上げた人が高い収入や地位を得られるのは、良いことだ	0.035	**0.831**	0.051	-0.054	-0.203	-0.037
(12)チャンスや運に恵まれて実績を上げた人が高い収入や地位を得られるのは、良いことだ	-0.138	**0.436**	-0.110	-0.110	**0.357**	0.000
(13)自分の能力を発揮してどれだけの実績を上げたかによってその人の価値が判断されるのは、良いことだ	0.040	**0.410**	-0.086	0.104	-0.024	0.069
(10)仕事には、その仕事にふさわしい能力をもっている人がつくべきだ	0.037	**0.318**	0.080	0.168	0.160	-0.122
(17)豊かな人と貧しい人との差が大きすぎるのは良くない	0.101	0.005	**0.740**	-0.033	0.033	-0.012
(19)理由は何であれ今生活に困っている人には、政府が援助をすべきだ	0.079	-0.067	**0.534**	0.102	0.074	0.087
(1)誰かが困っていたら、どんな小さなことでも、何か手助けをするべきだ	-0.247	0.072	**0.348**	0.046	0.023	0.128
(18)人が貧乏になるのは、その人のせいである	0.102	0.138	-0.251	0.171	0.023	0.184
(16)今の世の中では、その人の実績によって収入や地位が決まる	0.146	0.168	0.191	0.159	-0.030	0.104
(7)一流といわれる会社に入ると、人生の成功者だ	-0.104	-0.041	0.019	**0.757**	-0.071	-0.033
(8)お金がたくさんあったほうが幸せに暮らせる	-0.045	0.060	0.088	**0.654**	0.044	-0.132
(9)成功するためには、努力より運が重要だ	-0.007	0.009	0.048	-0.048	**0.680**	-0.117
(6)将来のためにがまんして努力するより、今を楽しく過ごすほうがいい	0.037	-0.118	0.120	0.004	**0.500**	0.090
(2)他人に迷惑をかけなければ、何をしてもいい	0.228	0.018	-0.103	0.050	**0.320**	0.055
(15)人間の生まれつきの能力にはそれほど大きな差はない	-0.006	-0.029	0.058	-0.087	-0.035	**0.559**
(14)人間は、生きていることだけで十分価値がある	-0.132	0.053	0.260	-0.047	0.065	**0.418**

8 競争観(1)

表 2.8.1 は、「勉強やその他のことで競争することについて、いろいろな考えがあります。(1)～(10)の各項目についてあなた自身はどう思いますか」として、その 10 項目に「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の４段階で回答してもらった結果を示したものである。これらはその質問内容から考えて全体として、生徒が学校制度世界での学業成績・進

表 2.8.1 競争観(1)(回答者全体)(単位：%)

	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う
(5)競争の結果を決めるのは、本人の努力だ	2.5	7.4	37.9	52.2
(2)成績の順位を比べて安心したり、不安になったりする	7.0	14.7	42.4	35.9
(3)受験は他人との競争だ	8.2	20.6	35.2	36.0
(10)学歴とは関係なく、努力すれば誰でも世の中で成功できる	8.2	23.9	37.8	30.1
(1)競争は勉強の励みになる	9.4	26.7	42.7	21.2
(4)競争に勝たなければ目標とするものは得られない	9.5	32.1	33.9	24.5
(7)才能の恵まれている人にはかなわない	11.0	28.9	37.7	22.5
(8)中学校までにできた学力の差を縮めることはむずかしい	11.7	33.5	36.0	18.8
(9)今の世の中で成功するには常に競争に勝ち続けなければならない	9.2	36.8	37.4	16.6
(6)あくせく競争しても、たいしたものは得られない	12.1	47.8	30.7	9.4

表2.8.2 競争観(1)(「ランク」ごとのクロス集計)(単位:%)

	「ランク」	まったくそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う
(1)競争は勉強の励みになる***	1	13.9	32.3	40.9	12.8
	2	11.0	34.5	37.1	17.4
	3	11.8	25.1	43.7	19.4
	4	4.3	20.2	51.7	23.8
	5	6.3	21.9	40.4	31.4
(2)成績の順位を比べて安心したり、不安になったりする***	1	8.5	19.8	41.6	30.1
	2	8.9	17.8	45.3	28.0
	3	8.6	14.6	44.9	31.9
	4	4.8	11.7	41.9	41.7
	5	4.3	10.4	38.6	46.8
(3)受験は他人との競争だ***	1	10.5	21.4	35.9	32.3
	2	10.1	22.2	38.1	29.6
	3	10.6	20.4	35.2	33.8
	4	4.9	21.0	34.8	39.3
	5	5.4	18.3	32.3	44.1
(4)競争に勝たなければ目標とするものは得られない***	1	12.0	35.3	34.9	17.8
	2	10.2	36.2	33.9	19.7
	3	10.0	32.8	32.4	24.8
	4	7.9	32.6	35.0	24.5
	5	7.6	24.7	33.3	34.4
(5)競争の結果を決めるのは、本人の努力だ***	1	5.1	7.9	41.9	45.1
	2	2.3	10.4	40.0	47.2
	3	1.6	6.2	37.8	54.4
	4	1.7	6.9	38.4	53.0
	5	1.7	5.9	32.2	60.2
(6)あくせく競争しても、たいしたものは得られない**	1	12.0	44.5	32.8	10.7
	2	8.1	50.6	31.5	9.8
	3	10.2	46.0	32.5	11.4
	4	13.4	51.0	29.2	6.5
	5	16.3	47.0	28.0	8.7
(7)才能の恵まれている人にはかなわない	1	13.0	28.6	35.7	22.6
	2	11.2	30.0	38.1	20.7
	3	13.0	29.4	35.6	22.0
	4	8.8	28.6	43.0	19.6
	5	8.9	27.8	36.5	26.9
(8)中学校までにできた学力の差を縮めることはむずかしい***	1	7.7	29.9	38.2	24.1
	2	8.0	26.4	42.9	22.6
	3	8.6	34.7	36.5	20.1
	4	16.5	39.7	32.0	11.8
	5	17.0	36.3	30.8	15.9
(9)今の世の中で成功するには常に競争に勝ち続けなければならない	1	9.7	33.9	39.3	17.2
	2	8.2	41.0	35.5	15.2
	3	10.2	34.5	39.7	15.6
	4	8.6	40.4	35.5	15.5
	5	9.2	34.4	37.0	19.4
(10)学歴とは関係なく、努力すれば誰でも世の中で成功できる	1	7.9	21.5	38.2	32.4
	2	7.6	22.7	38.1	31.6
	3	7.2	20.8	37.8	34.2
	4	9.7	25.4	38.3	26.7
	5	8.7	28.6	36.7	26.0

学をめぐる競争とその競争の学校外の世界との関わりをどう受けとめているかという、彼/彼女らの「競争観(1)」質問群（競争観に関わる質問群はもう一つあるので、(1)とした）を浮かび上がらせるものであると言っていいだろう。

表2.8.2は、競争観(1)各項目への回答と回答者の所属学級「ランク」とのクロス集計表である。

表2.8.3は、これら10項目の回答を因子分析した結果を示している[16]。抽出された3つの因子はそれぞれ、第1因子は「競争の正統性承認」因子（今の社会では、学校内外にわたって競争関係が存在し目標達成・成功のためにはその競争に勝つことが必要であると認識し、競争に努力を引き出す効用があることも認め、競争の結果としての序列上どの位置につくかによって気持ちが揺れ動くという点から）、第2因子は「競争の帰趨の固定視」因子（もって生まれた才能や一定段階での競争の結果を、その後の競争の帰趨を大きく規定するものとみるという点から）、第3因子は「努力志向」因子（成功できるかどうかは「努力」によって大きく左右されるものとみるという点から）、と解釈した。

これら3つの表に示されているところから、次のような知見を引き出すことができる。

①第3因子「努力志向」因子への因子負荷量の大きい「(10)学歴とは関係なく、努力すれば誰でも世の中で成功できる」は、この質問群の10項目の中で「そう思う」とする程度が最も高い。同じく第3因子への因子負荷量が大きい「(5)競争の結果を決めるのは、本人の努力だ」（ただし、この項目は第1因子への負荷量のほうがより大きい）も、「そう思う」とする率が比較的高い（10項目中第4位）。したがって、回答者は全般的には「努力志向」的であると言える。特に(10)の回答傾向には「ランク」間の統計的有意差が見られない。よって、「努力志向」は「ランク」の違いのいかんにかかわらず回答者の間にある程度均等に見られる傾向であると推測できる。

②第2因子への負荷量が大きい「(8)中学校までにできた学力の差を縮めることはむずかしい」「(7)才能の恵まれている人にはかなわない」「(9)今の世の中で成功するには常に競争に勝ち続けなければならない」はいずれも、「そう思う」率が10項目の中で下位の方に集中している。したがって回答者は全体的には、「競争の帰趨の固定視」の傾向はそれほど強くはないと言える。これら3項目中統計的に有意差が見られるのは(8)のみで、この項目の場合、下の「ランク」のほうで「そう思う」割合が高くなっている。ゆえに、「競争の帰趨の固定視」の傾向については、上記の点とともに、所属学級の「ランク」が下位のほうの生徒にその傾向がやや集中していると見

16 「(6)あくせく競争しても、たいしたものは得られない」は外して因子分析を行った。理由は、脚注14に記したのと同じ。

表2.8.3 競争観(1)因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子
(3)受験は他人との競争だ	**0.686**	0.041	-0.032
(1)競争は勉強の励みになる	**0.617**	-0.247	-0.001
(2)成績の順位を比べて安心したり、不安になったりする	**0.609**	0.011	0.002
(4)競争に勝たなければ目標とするものは得られない	**0.605**	0.095	-0.013
(5)競争の結果を決めるのは、本人の努力だ	**0.412**	-0.001	**0.344**
(9)今の世の中で成功するには常に競争に勝ち続けなければならない	**0.377**	**0.347**	-0.081
(8)中学校までにできた学力の差を縮めることはむずかしい	-0.116	**0.683**	0.156
(7)才能の恵まれている人にはかなわない	0.036	**0.500**	-0.156
(10)学歴とは関係なく、努力すれば誰でも世の中で成功できる	-0.021	0.017	**0.601**

ることができる。

③ここまでに言及してこなかった４項目（「(1)競争は勉強の励みになる」「(2)成績の順位を比べて安心したり、不安になったりする」「(3)受験は他人との競争だ」「(4)競争に勝たなければ目標とするものは得られない」）及び「(5)競争の結果を決めるのは、本人の努力だ」「(9)今の世の中で成功するには常に競争に勝ち続けなければならない」は、第１因子「競争の正統性承認」への負荷量の大きい項目である。これらの項目への賛否は、その散らばりが大きく、生徒の間で、競争の正統性を承認するか否かが大きく分かれていることが推測される。これら６項目中５項目で統計的有意差が見られるが、いずれの項目でも高「ランク」のほうで肯定率が高いという傾向が見られる。つまり、高「ランク」の学級の生徒のほうが競争の正統性を承認する傾向が強いということである。

9　競争観(2) 負けたくないと思うもの、及び生きていくために重要だと思うもの

表2.9.1.1「競争観(2) 負けたくないと思うもの」及び表2.9.1.2「生きていくために重要だと思うもの」は、前者が「あなたにとって、まわりの人間と比べて負けたくないと思うもの」を、後者が「あなたにとって、これから生きていくために重要だと思うもの」を、そこに列挙されている18項目（どちらの表も同じ）から「強くそう思う順に」３位まで答えてもらった結果を示している（各項目を１位に挙げている人数と、この質問群への有効回答者全体に対するその割合。及び各項目を１～３位に挙げている合計人数と、この質問群への有効回答者全体に対するその割合）。また表2.9.2.1及び表2.9.2.2は、それぞれ「負けたくないと思うもの」と「生きていくために重要だと思うもの」とについて、学級「ランク」とクロス集計した結果（各項目を１～３位に挙げている合計人数と、この質問群への有効回答者全体に対するその割合を「ランク」ごとに集計した結果）を示している。

表2.9.1.1 競争観(2)負けたくないと思うもの（回答者全体）

	1位		1～3位	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
(2)運動能力・スポーツの技術やセンス	423	17.7	816	34.0
(17)特にない	362	15.1	362	15.1
(1)学業成績	361	15.1	852	35.5
(14)自分らしい各種の趣味	246	10.3	493	20.6
(3)楽器演奏や美術などの才能やセンス	181	7.6	403	16.8
(11) 話のおもしろさ	127	5.3	468	19.5
(8)友だちの間での人気、人望	122	5.1	461	19.2
(13)初対面の人とのつきあいのうまさ	101	4.2	308	12.8
(18)その他	80	3.3	119	5.0
(9)服装やヘアスタイルなどのセンス	78	3.3	314	13.1
(15)身近な話題（友だち関係、芸能人、地域の情報等）に関する情報の豊富さ	69	2.9	236	9.8
(5)語学能力	48	2.0	164	6.8
(12) 顔の広さ・人脈の豊富さ	47	2.0	251	10.5
(6)コンピューターに関する知識・技術	40	1.7	134	5.6
(7)異性からの人気	29	1.2	169	7.0
(10)顔やプロポーションなどの容姿	29	1.2	118	4.9
(16)社会・政治・経済などの問題に関する知識の豊富さ	29	1.2	118	4.9
(4)自由につかえるお金の額	21	0.9	92	3.8
合計	2393	100.0		

＊「(17)特にない」は、第1位にマークされている場合以外は欠損値とする。

表2.9.1.1より、「負けたくないと思うもの」の第１位として選択されている割合が多い項目を見てみると、(ｱ)「(2)運動能力・スポーツの技術やセンス」「(1)学業成績」、(ｲ)「(17)特にない」、(ｳ)「(14)自分らしい各種の趣味」「(3)楽器演奏や美術などの才能やセンス」、(ｴ)「(11)話のおもしろさ」「(8)友だちの間での人気、人望」「(13)初対面の人とのつきあいのうまさ」などとなっていることがわかる。(ｱ)は、学校のフォーマルな場面において競争の目標とされているもの、(ｲ)は競争意識のなさを示すもの、(ｳ)は「個性」をめぐる競争に関わる項目、(ｴ)は対人関係能力をめぐる競争に関わる項目、とカテゴライズできるだろう。第１～３位の合計でも、「(17)特にない」が下位に下がること（この項目は、第１位に挙げられている場合のみ有効回答として扱っている）

と(ウ)にカテゴライズできるであろう「(9)服装やヘアスタイルなどのセンス」が比較的上位に加わることを除けば、同じ項目がおおよそ同じ順序で上位に並んでいる。この点について表2.9.2.1より「ランク」による違いを見てみると、「(1)学業成績」が「ランク」が高くなるほど選択の割合が増加し、「(9)服装やヘアスタイルなどのセンス」が「ランク」が低くなるほど選択の割合が増加するという傾向が見られたが、それ以外は「ランク」の高低と系統的に対応するような傾向は見られなかった。

表2.9.1.2 生きていくために重要だと思うもの(回答者全体)

	1位		1～3位	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
(1)学業成績	595	24.7	1032	42.8
(13)初対面の人とのつきあいのうまさ	439	18.2	1069	44.3
(12) 顔の広さ・人脈の豊富さ	245	10.2	830	34.4
(5)語学能力	230	9.6	770	31.9
(16)社会・政治・経済などの問題に関する知識の豊富さ	164	6.8	766	31.8
(8)友だちの間での人気、人望	134	5.6	413	17.1
(4)自由につかえるお金の額	123	5.1	360	14.9
(14)自分らしい各種の趣味	70	2.9	193	8.0
(6)コンピューターに関する知識・技術	63	2.6	356	14.8
(11) 話のおもしろさ	61	2.5	256	10.6
(18)その他	59	2.5	80	3.3
(17)特にない	56	2.3	56	2.3
(3)楽器演奏や美術などの才能やセンス	52	2.2	122	5.1
(2)運動能力・スポーツの技術やセンス	47	2.0	163	6.8
(7)異性からの人気	21	0.9	112	4.6
(15)身近な話題(友だち関係、芸能人、地域の情報等)に関する情報の豊富さ	19	0.8	146	6.1
(10)顔やプロポーションなどの容姿	16	0.7	98	4.1
(9)服装やヘアスタイルなどのセンス	14	0.6	82	3.4
合計	2408	100.0		

＊「(17)特にない」は、第1位にマークされている場合以外は欠損値とする。

次に「生きていくために重要だと思うもの」に関して、「負けたくないと思うもの」と比較しつつ見てみる(表2.9.1.2と表2.9.1.1との比較)。上で「(イ)競争意識のなさを示すもの」とした「(17)特にない」の選択は、ぐっと少なくなっている。「(ア) 学校のフォーマルな場面において競争の目標とされているもの」では、「(1)学業成績」の選択はいっそう増加するが「(2)運動能力・スポーツの技術やセンス」は減少している。「(ウ)「個性」をめぐる競争に関わる項目」とした「(14)自分らしい各種の趣味」「(3)楽器演奏や美術などの才能やセンス」「(9)服装やヘアスタイルなどのセンス」のどれも上位に食い込んでいない。代わって「(エ)対人関係能力をめぐる競争に関わる項目」のカテゴリーに相当するものが上位にきている。ただし、「負けたくないと思うもの」の場合とは項目が変わり、「(13)初対面の人とのつきあいのうまさ」や「負けたくないと思うもの」ではさほど上位に配置していなかった「(12)顔の広さ・人脈の豊富さ」が、「(11)話のおもしろさ」「(8)友だちの間での人気、人望」より上になっている。そこには、「社会関

表2.9.2.1 競争観(2)負けたくないと思うもの(回答者全体)(「ランク」ごとのクロス集計)

	1		2		3		4		5	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
(1)学業成績	119	25.9	136	29.8	158	31.9	183	40.2	256	48.1
(2)運動能力・スポーツの技術やセンス	162	35.3	179	39.3	166	33.5	137	30.1	172	32.3
(3)楽器演奏や美術などの才能やセンス	86	18.7	70	15.4	94	19.0	65	14.3	88	16.5
(4)自由につかえるお金の額	17	3.7	26	5.7	23	4.6	11	2.4	15	2.8
(5)語学能力	26	5.7	40	8.8	29	5.8	32	7.0	37	7.0
(6)コンピューターに関する知識・技術	33	7.2	16	3.5	28	5.6	30	6.6	27	5.1
(7)異性からの人気	40	8.7	42	9.2	31	6.3	26	5.7	30	5.6
(8)友だちの間での人気、人望	85	18.5	89	19.5	75	15.1	102	22.4	110	20.7
(9)服装やヘアスタイルなどのセンス	77	16.8	60	13.2	64	12.9	53	11.6	60	11.3
(10)顔やプロポーションなどの容姿	25	5.4	21	4.6	20	4.0	22	4.8	30	5.6
(11) 話のおもしろさ	100	21.8	104	22.8	94	19.0	78	17.1	92	17.3
(12) 顔の広さ・人脈の豊富さ	40	8.7	56	12.3	47	9.5	50	11.0	58	10.9
(13)初対面の人とのつきあいのうまさ	54	11.8	75	16.4	50	10.1	54	11.9	75	14.1
(14)自分らしい各種の趣味	97	21.1	99	21.7	104	21.0	87	19.1	106	19.9
(15)身近な話題(友だち関係、芸能人、地域の情報等)に関する情報の豊富さ	45	9.8	59	12.9	56	11.3	32	7.0	44	8.3
(16)社会・政治・経済などの問題に関する知識の豊富さ	17	3.7	18	3.9	25	5.0	28	6.2	30	5.6
(17)特にない	76	16.6	51	11.2	90	18.1	86	18.9	59	11.1
(18)その他	17	3.7	22	4.8	30	6.0	25	5.5	25	4.7
合計	459		456		496		455		532	

係資本」の「表出的」な側面よりも「道具的」なそれ[17]を「生きていくために」重要視する傾向が見てとれる。また「負けたくないと思うもの」では目立たなかった「(5)語学能力」や「(16)社会・政治・経済などの問題に関する知識の豊富さ」も上位を占める。これらも「道具的」能力と見ていいだろう。表2.9.2.2より「ランク」による違いを見てみると、「(1)学業成績」の選択が「ランク」の高低とおおよそ対応している（「ランク」が高い方が選択率も高い）こと、「対人関係能力」関連の項目では、「(13)初対面の人とのつきあいのうまさ」は低「ランク」で、「(12)顔の広さ・人脈の豊富さ」は高「ランク」で選択率が高いこと、「(5)語学能力」が「ランク」５のみで突出して選択率が高くなっていること、などが特徴的である。

表2.9.2.2　生きていくために重要だと思うもの（回答者全体）（「ランク」ごとのクロス集計）

	1		2		3		4		5	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
(1)学業成績	188	41.0	171	36.8	216	43.6	202	44.2	255	47.5
(2)運動能力・スポーツの技術やセンス	41	9.0	35	7.5	34	6.9	23	5.0	30	5.6
(3)楽器演奏や美術などの才能やセンス	23	5.0	25	5.4	33	6.7	13	2.8	28	5.2
(4)自由につかえるお金の額	77	16.8	72	15.5	74	14.9	65	14.2	72	13.4
(5)語学能力	140	30.6	131	28.2	159	32.1	123	26.9	217	40.4
(6)コンピューターに関する知識・技術	77	16.8	76	16.3	79	16.0	52	11.4	72	13.4
(7)異性からの人気	20	4.4	32	6.9	25	5.1	16	3.5	19	3.5
(8)友だちの間での人気、人望	63	13.8	72	15.5	73	14.7	117	25.6	88	16.4
(9)服装やヘアスタイルなどのセンス	24	5.2	24	5.2	15	3.0	9	2.0	10	1.9
(10)顔やプロポーションなどの容姿	19	4.1	17	3.7	19	3.8	20	4.4	23	4.3
(11) 話のおもしろさ	27	5.9	42	9.0	61	12.3	60	13.1	66	12.3
(12) 顔の広さ・人脈の豊富さ	126	27.5	147	31.6	156	31.5	183	40.0	218	40.6
(13)初対面の人とのつきあいのうまさ	214	46.7	247	53.1	205	41.4	200	43.8	203	37.8
(14)自分らしい各種の趣味	35	7.6	43	9.2	53	10.7	39	8.5	23	4.3
(15)身近な話題（友だち関係、芸能人、地域の情報等）に関する情報の豊富さ	27	5.9	34	7.3	32	6.5	23	5.0	30	5.6
(16)社会・政治・経済などの問題に関する知識の豊富さ	147	32.1	145	31.2	159	32.1	140	30.6	175	32.6
(17)特にない	22	4.8	9	1.9	9	1.8	10	2.2	6	1.1
(18)その他	10	2.2	9	1.9	18	3.6	21	4.6	22	4.1
合計	458		465		495		457		537	

10　卒業後の進路希望

表2.10は、「あなたは、高校卒業後どのような進路を希望していますか」として、この表にある18の選択肢から１つを選んでもらった結果を、回答者全体及び各「ランク」について示している。

四年制大学への進学率を指標のひとつとして「ランク」分けをしたのであるから当然といえば当然なのだが、「(1)四年制大学に進学」の進路希望が「ランク」によって大きく異なっている。その割合が減少するにつれて、まず「(3)専門学校（専修学校専門課程）に進学」の割合が上昇し、「ランク」３以下では「(5)民間会社の正社員として就職」の割合が上昇していく（「ランク」２と１とでは前者の方がその割合は大きいが）。いずれの「ランク」でも、以上の３つで進路希望先の大半を占めている。「(10) フリーター（アルバイト・パートなど非正規雇用）として働く」ことを希望する生徒は、「ランク」２で2.0%となっているのが最高で、ほとんどいない。

17　「社会関係資本」とは、いわゆる「コネ」などがその典型のひとつであるような、人と人との社会関係がもたらす、その関係の当事者が何らかの経済的・象徴的な価値を獲得していく際の手段となるような資源や、あるいはそうした資源をもたらす社会関係そのもののことを指す。社会関係資本の「道具的」側面とは、例えば職やそれにつながる資格・技能等を獲得する際に利用できるような、何らかの実利的な資源やそれをもたらす社会関係を意味し、「表出的」側面とは、例えば精神的に痛手を受けている際のその感情の受容・支持といった、情緒的なメリットやそれをもたらす社会関係を意味する。以上については差しあたり、乾彰夫（2007）「明日を模索する若者たち：高卒３年目の分岐－「世界都市」東京における若者の〈学校から雇用へ〉の移行過程に関する研究Ⅲ－」首都大学東京都市教養学部人文・社会系　東京都立大学人文学部教育学研究室『教育科学研究』第22号、における「社会関係資本」概念についての整理を参照。

表2.10.1　卒業後の進路希望（回答者全体及び「ランク」ごとのクロス集計）

	全体		1		2		3		4		5	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
(1)四年制大学に進学	1295	53.7	53	11.6	82	17.6	265	53.9	397	86.3	498	92.9
(2)短期大学に進学	84	3.5	19	4.2	29	6.2	22	4.5	13	2.8	1	0.2
(3)専門学校（専修学校専門課程）に進学	363	15.1	135	29.6	95	20.4	96	19.5	28	6.1	9	1.7
(4)職業訓練校に進学	29	1.2	9	2.0	9	1.9	9	1.8	2	0.4	0	0.0
(5)民間会社の正社員として就職	397	16.5	152	33.3	182	39.1	62	12.6	1	0.2	0	0.0
(6)公務員等の正職員として就職	65	2.7	31	6.8	18	3.9	10	2.0	5	1.1	1	0.2
(7)自分で事業を起こして働く	7	0.3	2	0.4	4	0.9	1	0.2	0	0.0	0	0.0
(8)親の家業を有給で手伝う	14	0.6	7	1.5	2	0.4	3	0.6	1	0.2	1	0.2
(9)　親の家業を無給で手伝う	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
(10)フリーター（アルバイト・パートなど非正規雇用）として働く	17	0.7	9	2.0	5	1.1	2	0.4	0	0.0	1	0.2
(11)専業主婦・主夫になる	3	0.1	1	0.2	0	0.0	2	0.4	0	0.0	0	0.0
(12)独立や開業に向けて準備	5	0.2	0	0.0	3	0.6	1	0.2	1	0.2	0	0.0
(13)進学や留学に向けて勉強	5	0.2	0	0.0	0	0.0	2	0.4	0	0.0	3	0.6
(14)資格取得に向けて勉強	16	0.7	4	0.9	4	0.9	3	0.6	2	0.4	3	0.6
(15)芸能・芸術などのプロを目指して勉強・修行	21	0.9	8	1.8	6	1.3	1	0.2	0	0.0	6	1.1
(16)結婚準備	12	0.5	4	0.9	6	1.3	1	0.2	1	0.2	0	0.0
(17)介護や家事	2	0.1	2	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
(18)その他	75	3.1	20	4.4	21	4.5	12	2.4	9	2.0	13	2.4
合計	2410	100.0	456	100.0	466	100.0	492	100.0	460	100.0	536	100.0

11　職業観

表2.11.1は、「あなたは、自分自身の将来の職業生活についてどのように考えていますか」として、表中の21項目各々について「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の4段階で回答してもらった結果である。

表2.11.1　職業観（回答者全体）（単位：%）

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
(1)自分のやりたいことを仕事としてやっていきたい	1.0	2.6	26.7	69.8
(4)自分の力をいかせる仕事につきたい	1.0	4.3	35.6	59.1
(16)安定した職業生活をおくりたい	1.6	6.1	36.3	56.1
(8)仕事に必要な自分の知識や技術をたえず向上させていきたい	1.0	6.8	38.4	53.9
(19)同僚どうしで支えあいながら楽しく仕事をしたい	2.2	5.8	38.6	53.5
(5)仕事を通じて高い収入を得たい	1.4	9.9	43.6	45.0
(9)ひとの役に立つ仕事をしたい	3.4	12.2	38.6	45.7
(11)仕事は、生活していくのに必要なお金を得る手段だと思う	3.0	12.3	45.3	39.4
(7)仕事を通じて人から尊敬されるようになりたい	2.8	17.1	37.6	42.5
(20)仕事をきちんとやっていけるかどうか不安である	4.1	14.1	43.8	38.0
(18)年齢ではなく仕事の実績によって給料や地位を決めてほしい	3.7	20.8	42.1	33.3
(2)収入に恵まれなくても自分のやりたい仕事をしたい	5.8	29.7	40.7	23.9
(17)同じ会社や役所で一生働きたい	7.8	31.1	38.9	22.2
(6)仕事を通じて高い地位につきたい	7.2	35.5	33.0	24.3
(14)働かずに生活できるなら、働きたくない	16.0	33.5	25.9	24.6
(13)あまりがんばって働かず、のんびりくらしたい	11.7	40.2	34.8	13.3
(15)若いうちは、ひとつの仕事にとどまらずいろいろな仕事を経験したい	13.2	41.0	32.0	13.8
(21)職業生活についてはとくに考えていない	32.2	36.7	22.3	8.8
(12)たとえ私生活を犠牲にしても、仕事に打ち込みたい	25.0	54.8	15.0	5.3
(10)仕事の中身は何でもかまわない	35.9	46.7	12.0	5.3
(3)自分のやりたい仕事が見つからなければ、働かなくてもよいと思う	57.6	33.8	6.1	2.5

この「職業観」質問群への回答傾向として、次のような点が見てとれる。まず、「(1)自分のやりたいことを仕事としてやっていきたい」「(4)自分の力をいかせる仕事につきたい」が21項目中第1・2位を占めている。そこからは、職業を通じての自己実現を図りたいという志向が生徒の間に広く存在していること

がうかがわれる。第4位の「(8)仕事に必要な自分の知識や技術をたえず向上させていきたい」も、同じ志向性を表す項目であると考えていいだろう。一方、「(3)自分のやりたい仕事が見つからなければ、働かなくてもよいと思う」「(10)仕事の中身は何でもかまわない」「(21)職業生活についてはとくに考えていない」などを肯定する割合は低い。全体として、職業を自分が生きる上で何らか重要なものとして捉える傾向を見て取ることができる。

表2.11.2 職業観(「ランク」ごとのクロス集計)(単位:%)

	「ランク」	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる		「ランク」	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
(1)自分のやりたいことを仕事としてやっていきたい***	1	1.1	3.5	28.9	66.5	(12)たとえ私生活を犠牲にしても、仕事に打ち込みたい	1	23.1	55.5	15.7	5.7
	2	0.2	4.3	33.1	62.4		2	26.7	54.8	13.3	5.2
	3	1.2	1.2	23.9	73.7		3	28.7	50.0	15.4	5.9
	4	0.7	2.8	26.8	69.7		4	23.3	58.7	13.7	4.3
	5	1.5	1.3	21.6	75.6		5	23.0	55.1	16.4	5.4
(2)収入に恵まれなくても自分のやりたい仕事をしたい	1	5.7	31.1	40.4	22.8	(13)あまりがんばって働かず、のんびりくらしたい	1	14.0	38.0	35.4	12.7
	2	6.0	29.1	41.4	23.5		2	9.5	37.8	38.0	14.7
	3	5.2	27.7	39.5	27.7		3	11.4	41.4	32.9	14.3
	4	7.0	30.4	41.7	20.9		4	11.3	42.6	34.8	11.3
	5	5.2	30.2	40.5	24.1		5	12.3	40.9	33.1	13.6
(3)自分のやりたい仕事が見つからなければ、働かなくてもよいと思う**	1	55.7	36.2	5.5	2.6	(14)働かずに生活できるなら、働きたくない*	1	15.2	31.0	29.7	24.2
	2	49.5	38.0	9.7	2.8		2	12.7	33.3	29.6	24.4
	3	58.1	33.2	6.0	2.6		3	15.7	31.3	24.7	28.3
	4	63.4	30.1	4.6	2.0		4	17.2	36.2	24.8	21.8
	5	60.9	32.0	4.7	2.4		5	18.9	35.5	21.7	23.9
(4)自分の力をいかせる仕事につきたい	1	0.9	4.6	39.9	54.7	(15)若いうちは、ひとつの仕事にとどまらずいろいろな仕事を経験したい	1	12.4	41.1	31.7	14.8
	2	1.5	5.8	36.6	56.1		2	13.7	39.1	33.0	14.1
	3	1.2	3.6	36.0	59.2		3	13.9	39.6	31.5	15.1
	4	0.2	3.7	34.3	61.7		4	12.2	44.4	32.5	10.9
	5	0.9	3.8	31.9	63.4		5	13.6	40.9	31.2	14.2
(5)仕事を通じて高い収入を得たい*	1	2.8	11.5	43.8	41.8	(16)安定した職業生活をおくりたい	1	1.7	5.9	34.4	58.0
	2	0.9	10.0	48.7	40.5		2	1.5	6.9	37.6	54.0
	3	1.4	10.0	40.4	48.2		3	1.8	5.6	35.5	57.1
	4	1.5	8.1	46.6	43.8		4	1.5	4.4	37.3	56.9
	5	0.7	10.1	39.4	49.8		5	1.3	7.5	36.6	54.6
(6)仕事を通じて高い地位につきたい***	1	9.6	38.1	29.5	22.8	(17)同じ会社や役所で一生働きたい**	1	8.5	28.8	38.8	24.0
	2	5.6	38.5	35.3	20.6		2	5.7	30.9	43.6	19.8
	3	9.3	35.0	30.4	25.4		3	9.7	32.7	35.7	22.0
	4	6.1	38.6	34.4	20.9		4	6.1	25.8	43.0	25.1
	5	5.4	28.5	35.3	30.8		5	8.6	36.4	34.3	20.6
(7)仕事を通じて人から尊敬されるようになりたい	1	3.5	18.7	34.3	43.5	(18)年齢ではなく仕事の実績によって給料や地位を決めてほしい***	1	6.6	23.6	41.1	28.7
	2	2.6	16.8	42.0	38.6		2	3.7	20.8	43.4	32.1
	3	3.8	16.9	34.9	44.4		3	3.6	24.7	40.4	31.2
	4	1.5	16.6	42.4	39.5		4	2.2	19.2	44.4	34.2
	5	2.4	16.8	34.9	45.9		5	2.8	16.3	41.4	39.5
(8)仕事に必要な自分の知識や技術をたえず向上させていきたい***	1	1.3	7.6	44.6	46.5	(19)同僚どうしで支えあいながら楽しく仕事をしたい	1	2.6	6.1	40.0	51.3
	2	0.9	9.9	41.3	47.9		2	1.9	5.8	40.4	51.8
	3	1.2	6.6	37.2	54.9		3	2.4	7.0	37.1	53.4
	4	0.7	5.4	37.3	56.6		4	1.5	2.8	37.2	58.5
	5	0.7	4.5	32.7	62.1		5	2.3	6.8	38.5	52.4
(9)ひとの役に立つ仕事をしたい	1	3.1	13.1	37.6	46.2	(20)仕事をきちんとやっていけるかどうか不安である**	1	3.3	12.7	43.0	41.0
	2	3.2	14.2	43.8	38.8		2	3.5	14.7	45.2	36.6
	3	4.6	11.9	39.2	44.3		3	5.2	13.3	42.1	39.3
	4	2.6	10.9	37.0	49.6		4	3.3	9.8	48.3	38.7
	5	3.6	11.3	35.6	49.5		5	4.9	19.1	41.1	34.9
(10)仕事の中身は何でもかまわない***	1	31.2	47.6	14.8	6.3	(21)職業生活についてはとくに考えていない*	1	31.9	35.4	23.3	9.5
	2	33.1	46.0	16.1	4.7		2	25.4	38.4	25.9	10.3
	3	34.9	47.0	11.4	6.6		3	31.7	34.7	23.1	10.4
	4	34.8	50.7	9.8	4.8		4	35.5	38.1	20.5	5.9
	5	44.3	43.0	8.5	4.2		5	36.1	36.8	19.3	7.9
(11)仕事は、生活していくのに必要なお金を得る手段だと思う***	1	4.8	9.8	45.0	40.4						
	2	0.7	10.0	47.5	41.9						
	3	3.4	11.7	41.6	43.2						
	4	2.0	10.7	48.7	38.7						
	5	3.9	18.5	44.3	33.3						

表2.11.2は、職業観に関する各質問への回答と回答者の所属学級「ランク」とのクロス集計表である。上で言及した項目について見てみると、職業を通じての自己実現志向を示していると思われる3項目((1)(4)(8))については、所属学級の「ランク」が高い生徒のほうが「あてはまる」とする傾向が強い。それ以外の3項目((3)(10)(21))については、逆に低「ランク」のほうで「あてはまる」とする傾向が相対的に強くなっている。

表2.11.3は、職業観に関するこれら21項目への回答を因子分析した結果を示している[18]。第1因子は「職業による自己実現志向」(「(4)自分の力をいかせる」、「(1)(2)自分のやりたい」仕事に「(8)自分の知識や技術をたえず向上させ」つつ従事し、かつその仕事を通じて「(9)ひとの役に立つ」ことをも願っているという点から)、第2因子は「職業上の成功志向」(仕事を通じて「(6)高い地位」「(5)高い収入」「(7)人から尊敬」を得たいという点から)、第3因子は「反勤労志向」(「(13)あまりがんばって働かず、のんびりくらしたい」、「(14)働かずに生活できるなら、働きたくない」と勤労を厭う意識が表れている点から)、第4因子は「職業上の安定性志向」(「(17)同じ会社や役所で一生働きたい」、「(16)安定した職業生活をおくりたい」との関連が強い点から)、第5因子は「職業の自己目的志向」(中身は何でもいい(10)がこれと思った仕事に打ち込み(12)、しかしそう思える仕事がなければ働かなくてもいいと思う(3)という点から)、と解釈した。

表2.11.3 職業観因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子
(4)自分の力をいかせる仕事につきたい	**0.663**	0.075	0.047	-0.022	-0.114
(1)自分のやりたいことを仕事としてやっていきたい	**0.626**	-0.039	0.044	-0.047	-0.108
(2)収入に恵まれなくても自分のやりたい仕事をしたい	**0.596**	**-0.356**	0.038	-0.024	0.244
(8)仕事に必要な自分の知識や技術をたえず向上させていきたい	**0.556**	0.250	-0.127	0.003	0.007
(9)ひとの役に立つ仕事をしたい	**0.523**	0.014	-0.108	0.130	0.081
(19)同僚どうしで支えあいながら楽しく仕事をしたい	**0.464**	-0.022	0.076	0.225	-0.060
(6)仕事を通じて高い地位につきたい	-0.030	**0.877**	-0.065	-0.080	0.207
(5)仕事を通じて高い収入を得たい	0.007	**0.631**	0.131	0.069	-0.129
(7)仕事を通じて人から尊敬されるようになりたい	**0.339**	**0.514**	-0.073	-0.043	0.093
(18)年齢ではなく仕事の実績によって給料や地位を決めてほしい	0.162	0.248	0.058	0.108	0.054
(13)あまりがんばって働かず、のんびりくらしたい	0.045	-0.056	**0.658**	-0.023	-0.050
(14)働かずに生活できるなら、働きたくない	-0.033	0.079	**0.585**	0.044	-0.057
(21)職業生活についてはとくに考えていない	-0.105	0.029	**0.420**	-0.064	0.167
(15)若いうちは、ひとつの仕事にとどまらずいろいろな仕事を経験したい	0.233	0.113	0.295	-0.249	0.134
(17)同じ会社や役所で一生働きたい	-0.003	-0.035	-0.114	**0.696**	0.287
(16)安定した職業生活をおくりたい	0.210	0.040	0.050	**0.565**	-0.121
(11)仕事は、生活していくのに必要なお金を得る手段だと思う	0.000	0.208	0.216	0.291	-0.074
(10)仕事の中身は何でもかまわない	-0.205	0.045	0.154	0.254	**0.531**
(12)たとえ私生活を犠牲にしても、仕事に打ち込みたい	0.030	0.139	-0.158	0.080	**0.520**
(3)自分のやりたい仕事が見つからなければ、働かなくてもよいと思う	-0.016	0.001	**0.303**	-0.060	**0.455**

12 人生観

表2.12.1は、そこにある12項目各々について、「次のことがらは、あなたの人生にとってどのくらい重要ですか」と尋ね、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の4段階で回答してもらった結果を表示したものである。

表2.12.2は、人生観に関する各項目への回答が回答者の所属学級「ランク」によってどのように異なっているかを示したものである。

表2.12.3は、人生観に関する質問項目への回答を因子分析した結果を示している。第1因子は、「(9)不平等をなくすための社会活動」などといった形で(7)広範囲の社会に対して、あるいは(8)身近な人たちに対して「役に立つこと」を重要視する「社会的貢献志向」、第2因子は、「(8)親友」「(1)家庭」など身近な「(6)人とのつながり」を大切にしようとする(第1因子の「貢献」とはやや位相の異なる)「身近な関係

18 「(20)仕事をきちんとやっていけるかどうか不安である」は外して因子分析を行った。理由は、脚注14に記したのと同じ。

性重視」、第３因子は、(3)仕事での「成功」、「(2)お金持ちになる」、(4)仕事による他者からの「尊敬」を重視する「成功志向」、第４因子は、「(10)自分の好きなことを楽しむ時間」や「(11)自分の思いどおりに生きること」を大切に思う「自分らしさ志向」、と解釈した。

表2.12.1　人生観(回答者全体)(単位：%)

	まったく重要ではない	あまり重要ではない	やや重要である	とても重要である
(10)自分の好きなことを楽しむ時間をもつこと	0.5	3.4	35.1	61.0
(6)人とのつながりを大切にすること	1.1	3.6	23.0	72.3
(5)親友をもつこと	1.5	4.8	22.5	71.3
(8)身近な人たちの役に立つこと	2.2	8.2	42.2	47.5
(1)結婚して幸せな家庭生活をおくること	3.7	9.0	28.1	59.2
(3)仕事で成功すること	1.2	12.6	49.5	36.7
(12)人並みの生活をふつうに過ごすこと	4.6	11.8	41.7	41.9
(7)広く社会の役に立つこと	3.8	16.4	44.8	35.0
(4)仕事で人に尊敬されること	3.6	19.8	41.1	35.4
(11)自分の思いどおりに生きること	2.9	24.1	41.5	31.5
(2)お金持ちになること	3.2	26.7	46.9	23.1
(9)世の中のさまざまな不平等をなくすために社会活動をすること	7.5	33.1	40.8	18.6

これらから、次のようなことが見えてくる。

①回答者全体から「重要である」ものとして選択されている程度が最も高い項目は、「(10)自分の好きなことを楽しむ時間をもつこと」であり、それは「自分らしさ志向」因子への因子負荷量が大きい項目である。しかし同因子への負荷量の大きい他の２項目「(11)自分の思いどおりに生きること」「(12)人並みの生活をふつうに過ごすこと」の2.12.1における順位はあまり高くない。それに対して、「身近な関係性重視」因子への負荷量が大きい「(6)人とのつながりを大切にすること」「(5)親友をもつこと」「(1)結婚して幸せな家庭生活をおくること」はいずれも高順位となっている。したがって、回答者は全体として、「身近な関係性重視」志向が強いことが推測される。これら３項目（(6)(5)(1)）の回答傾向には、所属学級の「ランク」による違いがあまり見られない（(6)(5)には統計的有意差が出ておらず、(1)には有意差は出ているが、それへの回答と「ランク」との間のはっきりした関係を見出すことはできない)。

②「成功志向」因子への負荷量が大きい「(3)仕事で成功すること」「(2)お金持ちになること」「(4)仕事で人に尊敬されること」は、生徒の所属学級の「ランク」が高くなるにつれて、それらを「重要である」とする傾向が相対的に強くなる傾向が見られる。が、「ランク」４の生徒は、これら３項目いずれにおいても、それを「重要である」とする程度が他のどの「ランク」よりも低くなっている点が特徴的である。また、回答者全体がこれらの項目を「重要である」とする程度は、「(4)仕事で人に尊敬されること」が最も高位で第６位であり、したがって「成功志向」は生徒の間にあまり強くは見られないと言っていいだろう。

③「社会的貢献志向」因子への負荷量が大きい「(7)広く社会の役に立つこと」「(9)世の中のさまざまな不平等をなくすために社会活動をすること」「(8)身近な人たちの役に立つこと」の３項目は、それらへの回答と「ランク」のクロス集計において、(7)(8)では統計的有意差が見られず、(9)では有意差はあるが「ランク」によるはっきりとした系統的な傾向は読みとれない。

表2.12.2 人生観(「ランク」ごとのクロス集計)(単位:%)

	「ランク」	まったく重要ではない	あまり重要ではない	やや重要である	とても重要である
(1)結婚して幸せな家庭生活をおくること*	1	3.5	9.3	28.3	58.9
	2	3.2	5.6	26.7	64.4
	3	5.7	10.5	28.1	55.8
	4	2.2	10.7	30.0	57.2
	5	3.7	8.8	27.7	59.7
(2)お金持ちになること*	1	3.9	27.8	45.0	23.3
	2	3.4	24.3	50.1	22.2
	3	3.6	28.3	43.2	24.8
	4	2.2	32.6	45.4	19.8
	5	3.0	21.5	50.3	25.2
(3)仕事で成功すること**	1	2.2	13.9	47.3	36.6
	2	0.6	14.2	51.3	33.8
	3	1.2	12.5	45.3	41.0
	4	0.9	13.5	56.6	29.0
	5	1.1	9.4	47.6	41.9
(4)仕事で人に尊敬されること*	1	3.5	22.2	38.8	35.5
	2	3.2	17.7	45.7	33.4
	3	5.1	16.8	40.1	38.1
	4	2.2	21.7	45.0	31.1
	5	3.9	20.8	36.8	38.5
(5)親友をもつこと	1	1.1	5.7	27.1	66.2
	2	1.5	4.5	22.6	71.4
	3	2.4	4.9	24.1	68.6
	4	0.9	3.9	21.3	73.9
	5	1.3	4.9	18.0	75.8
(6)人とのつながりを大切にすること	1	1.1	4.2	23.2	71.6
	2	1.3	3.2	24.6	70.9
	3	1.4	3.8	24.5	70.2
	4	0.4	3.7	21.5	74.3
	5	1.3	3.4	21.2	74.1
(7)広く社会の役に立つこと	1	3.7	15.5	45.2	35.6
	2	3.9	17.8	46.9	31.4
	3	4.6	16.7	45.2	33.5
	4	2.4	15.9	46.1	35.7
	5	4.1	16.0	41.2	38.7
(8)身近な人たちの役に立つこと	1	3.1	9.0	41.1	46.8
	2	2.2	8.9	46.5	42.4
	3	2.6	9.3	43.1	45.0
	4	0.9	6.7	41.7	50.7
	5	2.1	7.2	38.8	52.0
(9)世の中のさまざまな不平等をなくすために社会活動をすること*	1	5.9	30.2	43.3	20.6
	2	5.8	35.3	40.9	17.9
	3	9.9	33.0	41.5	15.6
	4	5.7	33.3	42.8	18.3
	5	9.6	33.7	36.1	20.6
(10)自分の好きなことを楽しむ時間をもつこと*	1	0.9	5.0	38.4	55.7
	2	0.2	3.9	37.0	58.9
	3	1.0	3.0	31.0	64.9
	4	0.0	2.8	37.6	59.6
	5	0.4	2.6	32.1	64.9
(11)自分の思いどおりに生きること*	1	3.3	27.5	42.5	26.8
	2	3.0	26.4	40.0	30.5
	3	3.4	24.6	39.0	32.9
	4	1.7	24.6	44.1	29.6
	5	2.8	18.4	42.1	36.7
(12)人並みの生活をふつうに過ごすこと***	1	2.8	8.1	42.4	46.7
	2	3.4	9.1	42.0	45.5
	3	5.1	8.7	43.3	42.9
	4	3.9	16.3	41.8	37.9
	5	7.3	16.4	39.3	37.0

表2.12.3 人生観因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
(7)広く社会の役に立つこと	**0.896**	-0.070	0.037	-0.043
(9)世の中のさまざまな不平等をなくすために社会活動をすること	**0.714**	-0.112	-0.047	0.095
(8)身近な人たちの役に立つこと	**0.645**	0.235	-0.063	0.030
(5)親友をもつこと	-0.147	**0.935**	0.012	0.034
(6)人とのつながりを大切にすること	0.047	**0.827**	-0.047	0.004
(1)結婚して幸せな家庭生活をおくること	0.094	**0.317**	0.106	0.039
(3)仕事で成功すること	-0.007	0.029	**0.860**	-0.043
(2)お金持ちになること	-0.091	-0.071	**0.635**	0.133
(4)仕事で人に尊敬されること	0.211	0.185	**0.498**	-0.097
(10)自分の好きなことを楽しむ時間をもつこと	0.047	0.152	-0.017	**0.616**
(11)自分の思いどおりに生きること	-0.021	-0.131	0.169	**0.583**
(12)人並みの生活をふつうに過ごすこと	0.114	0.109	-0.093	**0.303**